



2016

沖縄県南風原町勢要覧

南風原町

Official Guide to Haebaru Town

フェアリー・タウン南風原



かすりの道

かすり会館

琉球かすり会館

くがに市場

お気に入りのいっぱい 「フェーバリー・タウン南風原」

このまちに根ざし世代を越えて暮らしてきた人も
そして、はじめて訪れる人も優しく包みこむ、誰もが愛せる場所「南風原町」。
「人」に寄り添い、誰もが感じることができる「お気に入り」が
とめどなく生み出される「フェーバリー・タウン 南風原」として
いつも新鮮な「風」を運んでくれる、まちづくりの様子を巡ってみましょう。

※「フェーバリー・タウン 南風原」とは南風原の呼称「フェーバリ」と英語の「お気に入り」を意味する
「フェイバリットfavorite」による造語です。

Haebaru Town, Full of Your Favorites Things

Everyone falls in love with Haebaru Town, a place that warmly embraces both people, who trace their roots and whose families have lived here for generations, as well as those visiting for their first time.

Travel around and see Feybaru, the Okinawan name for Haebaru. There are endless opportunities to see, experience and enjoy many favorites for all to appreciate up close. These specialties breathe a freshness air into the ambience of Haebaru.



CONTENTS 【目次】

- 02 町勢要覧発刊にあたって
南風原町長 城間俊安
- 03 琉球かすりの 南風原さんぽ
女王が行く！
- 10 南風原 TOWN MAP
- 12 琉球かすり
- 16 南風原良品
- 22 南風原町のまつり
- 24 南風原町の民俗芸能
- 26 南風原町指定文化財
- 28 南風原文化センター
南風原町立
- 30 南風原と沖縄戦
- 34 南風原町の戦跡
- 36 南風原人物列伝
- 38 南風原の民話
- 40 南風原町19の自治会
- 44 第四次南風原町総合計画
 - 教育・文化
 - 防災・安全対策
 - 健康・福祉
 - 生活環境
 - 産業振興
 - 行政・議会
- 58 世界とつながる 南風原の心
- 59 資料編
- 68 機構図
- 69 目で見る南風原町



第30代
琉球かすりの女王
ミセスブーゲンヒレア
赤嶺マキさん

第30代
琉球かすりの女王
ミセスあいぞめ
津嘉山咲子さん

撮影地：古民家「謝名家」（南風原町本部）

「南風原町観光アプリ」で 動画が見えます！

南風原町では観光ツールとして、動画が見れるスマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をご提供しています。是非お試しください！

(ダウンロード料金は無料、但しサービスにかかる通信料は利用者負担となります。)

まずは、アプリを
インストール(無料)

【iPhoneの場合】

- ①「Appストア」から
- ②「南風原町観光アプリ」を検索
- ③インストールボタンを押してインストール



【Androidの場合】

- ①「Playストア」から
- ②「南風原町観光アプリ」を検索
- ③インストールボタンを押してインストール



インストール後、アプリにある「AR」ボタンを押して、本文中の「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると、「案内動画」を見ることができます。

町勢要覧発刊にあたって

南風原町長 城間 俊安

南風原町は、沖縄県本島南部のほぼ中央に位置し、県都那覇市の東に隣接しております。近年では、那覇空港自動車道をはじめとする幹線道路の整備や津嘉山北土地区画整理事業により商業施設等も多く進出するなど、生活利便性の高い町として発展し、平成27年には、人口は37,000人を突破しております。また、琉球絣やかぼちゃ、はえばる美瓜（へちま）、ストレリチア、スターフルーツの産地としても知られ、平成27年4月のJAファーマーズマーケット南風原くがに市場の完成に伴い、さらなる農業振興に取り組んでいます。さらに、町内の各地域には数多くの伝統芸能や文化財が残されており、地域の伝統文化は現在へ受け継がれております。

近年の少子高齢化や情報化など、社会の変化の中、南風原町をより住みよい町にするために町民と協働で策定している総合計画も、平成29年度には第五次を迎えます。これまでの成果や反省を踏まえ、より魅力ある第五次総合計画の策定及び実現に向けて、町民と行政が協働し、更なる個性豊かな住みよいまちづくりを推進していきます。

今回発行いたしました南風原町勢要覧が多くの方々の目にとまり、南風原町のまちづくりに対してご関心とご理解、ご協力をいただければ幸いです。

On Publication of the Haeburu Town Guidebook

Haeburu Town Mayor Toshiyasu Shiroma

Haeburu Town, which lies to the east of the prefectural capital Naha City, is located almost in the center of the Okinawa main island southern region. In recent years, the municipality has enjoyed a high standard of living and convenience with the influx of many commercial establishments and other businesses, which have moved in thanks to improvements made along the arterial road and the Naha Airport Expressway, as well as the land readjustment project in North Tsukazan. In 2015, the population topped 37,000 people. Haeburu Town is also well known for production of Ryukyu Kasuri textiles, Haeburu loofah, pumpkins, bird-of-paradise flowers and star fruits. Since completion of the JA Farmers Market Haeburu Kugani Ichiba in April 2015, the town has been working to further promote agriculture. Moreover, communities throughout the town preserve numerous traditional performing arts and cultural properties, passing this traditional culture on to today's generation.

Amid the changes taking place in society in recent years including the declining birthrate, aging population and informatization, the fifth edition of the Haeburu Comprehensive Plan, drafted in cooperation with town residents to make the municipality an even better place to live, will be implemented in 2017. We have taken into account the results gained so far and reviewed previous plans with the aim of realizing an even more attractive Fifth Comprehensive Plan. The town administration and residents cooperate to promote development that makes Haeburu a very distinctive and exceptional place to live.

I hope that many people will peruse this Haeburu Town Guidebook and offer their interest, understanding and cooperation in developing Haeburu Town.



昭和46年4月18日制定

町章 Town Emblem

町名の頭文字「は」を以て鳥の雄飛するイメージに図案化し、町の平和と融和團結、さらに協力を表現し、併せて産業文化の躍進伸張を単純明快に象徴した町章です。また「波頭」をあしらって悠久に流れる國場川を意図しています。



◎町の花：ブーゲンビリア
(昭和57年12月25日告示)



◎町の木：コクタン
(昭和57年12月25日告示)



はえるん

南風原町観光大使
はえるん

平成25年4月1日、南風原町から「観光大使」に任命されました。

南風原町の自然の中で太陽をサンサンと浴びて育った明るく、元気いっぱいのはえるんです。18世紀後半、鳥のように大空を飛ばたい「飛び安里」のように空を飛べるようになって全国に南風原をPRしたいん♪

南風原町は沖縄県で唯一海に面していないけど、かぼちゃやへちま、かすり織り体験などおいしいものや楽しいことがいっぱい！

南風原町に遊びに来てね！！待ってん♪



南風原町長 城間 俊安

favorie HAEBARU
お気に入りがいっぱいの南風原

琉球かすりの女王が行く！

南風原さんぽ

南風原町を
ゆったり散歩！
見えてくる、
聞こえてくる、
心と身体で感じる
南風原町の
新発見！



南風原・琉球かすりの女王

2年に1度開催される「南風原・琉球かすりの女王コンテスト」にてミス&ミセスブーゲンビリア(各1名)、ミス&ミセスあいぞめ(各1名)計4名を選出し、琉球絣の女王として2年間、町内外の行事やイベントに参加し、琉球かすりをはじめ南風原町の特産品のPRのために活躍します。



第30代
琉球かすりの女王
ミスあいぞめ
神里春花さん



第30代
琉球かすりの女王
ミスブーゲンビリア
座安貴子さん



南風原観光前に
ここで情報収集!



南風原町の
農産物がたくさんあるぞ!



Tourist information

HAEBARU TOWN

はえばる観光案内所

ホットなはえばる情報と地域のすぐりむん、ありんくりん!

「はえばる観光案内所」は南風原町の魅力や情報を発信するスポット。南風原町のガイドブックやリーフレットの配布、地域ガイドの案内による「南風原シマじま巡り」といった歴史や文化を学ぶツアーも開催しており、南風原観光の拠点になっています。併設された特産品コーナーには町の工芸品「琉球かすり」を使った商品や、やちむん(陶器)、ハブ草を使った小物やアクセサリーをはじめ、南風原町内で作られたお菓子等、特産品を豊富に取り揃えています。店外はオープンテラスになっており、コーヒーやジュスを味わいながらゆっくりと休憩することもできます。これから南風原観光を始めようという方、スタートは「はえばる観光案内所」におこしください。

はえばる観光案内所
 【住所】南風原町字喜屋武241-1
 【電話】098-882-6776
 【営業時間】9:00~18:00
 【定休日】年末年始
 【駐車場】あり(無料)



カウンターには、町内12の字を紹介したパンフレット、グルメマップなど、観光情報がいっぱい。地元のお芝居やイベントのチケットも販売しています。どんな観光ルートがおすすぬか、スタッフへ気軽にご相談ください。

スマホで「はえばる観光案内所」の様子が見れます!

スマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をお使いの機種に合わせて、QRコードからインストールし、「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることが出来ます。

●詳しくは、巻頭の目次をご覧ください。

Farmer's Market

HAEBARU TOWN

ファーマーズマーケット南風原 くがに市場

「くがに」とは、沖縄の言葉で「こがね・黄金」。「くがに市場」の愛称は、町内にある黄金森(くがにもり)にちなみ、「生産者の汗・利用者の喜び・キラキラ輝いて欲しい」という意味が込められています。

南風原特産品で有名なカボチャやへちまにスターフルーツ・ストレリチア、生産者が丹精込めて作った愛情タップリの新鮮野菜に果物、花卉や加工食品等、南風原の味覚が揃う市場として町内外から多くの買い物客で賑わいます。店内では旬の農産物の活用法を紹介する常設の試食コーナーを県内ファーマーズで初めて設置し、地域農産物の試食を消費者の方々への提供やPRイベントを開催するなど地域振興の発展に活用されています。

ファーマーズマーケット南風原 くがに市場
 【住所】南風原町字津嘉山 889-1
 【電話】098-889-3377
 【営業時間】9:00~19:00
 【定休日】(ほぼ年中無休、正月3日間、旧盆1日休業)
 【駐車場】あり(無料)





「琉球かすり」織り体験

(琉球かすり会館要予約)
琉球かすりのコースター作りを
チャレンジ。カップルや
親子連れでも楽しく
織り体験できます。



ウルトラマンの
生みの親のひとり
金城哲夫って知ってた？



Kasuri Road

HAEBARU TOWN



1 2 かすり会館で両親へのお土産を購入。かすりの帽子ってカワイイ♥
3 かすりの道案内標識 4 かすりの道をゆっくりと散歩。南風原町観光協会では「かすりの道ツアー」も開催しているので要チェック!
5 6 周辺の住宅の壁には緋の圖案がペイントされ、圖案の解説を読むと散策しながら琉球かすりについて学ぶことができる。(地元小学校が伝統文化週間による行事で描いたもの) 7 かすり工房が集まる集落(本部・照屋・善屋武)は約2キロに及ぶ琉球かすりの模様が生かされた石畳の遊歩道に囲まれています。

国土交通省大臣表彰 手づくり郷土賞 奨励賞 かすりロード盛り上げ隊



有田焼と琉球かすりのコラボ 丸正織物 大城 幸司さん
した湯呑み 緋織物作家

平成23年「かすりの道」が地域住民から親しまれる道になるよう、地元有志12名により「かすりロード盛り上げ隊」が発足されました。月1度の清掃や「かすりの道」周辺の植栽による環境美化活動、南風原観光協会主催による「かすりの道ツアーガイド」を通してPR活動への取り組みや、「かすりの道」を利用した地域の小学校のイベントへも積極的に参加・協力しています。その取り組みが「地場産業である「琉球かすり」を活用した魅力ある地域づくり・地域貢献が高く評価され、国土交通大臣表彰(27年度)による「手づくり郷土賞」の奨励賞を見事受賞しました。そのメンバーの一人大城幸司さんは「地域住民と一緒に取り組んできた事が評価されたうれしい。今後の目標は県外・国外へもっと琉球かすりの魅力を発信していきたい」と話す大城さん。昨年からは有田焼創業400年事業の企画から有田焼とのコラボを展開しており、琉球かすりを活用した新たな工芸の可能性にチャレンジしています。

Enjoy Haebaru

HAEBARU TOWN



1ウルトラマン大好きマニアにはたまらない貴重な資料が展示している金城哲夫資料館(要予約:松風苑 ☎098-889-3471) 2ライト兄弟よりも150年前に空を飛んだ人が南風原町にいたんだよ! 3「飛び安里の初飛行記念碑」ちょっときついで石の階段を上ると見えてきます(高津嘉山) 4 古民家「謝名家」ここはお茶会や音楽会・寄席等が開催され、文化的観光施設として活用されています。 5 大城心伶さん(ウチナーグチ大会最優秀賞者)の見事なウチナーグチを聞く感動してしまふのは先祖から受け継いだ心があるからでしょうか…。 6 津嘉山地区の住民を見守るシーサーです。(津嘉山公民館) 7 南風原町の観光を支えている地元ガイドを務める金城正則さん(左)と赤嶺敏昭さん(右)。ガイドブックにはない貴重な話題を提供してくれました。



スマホで「金城哲夫資料館」の様子が
見れます!

スマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をお使いの機種に合わせてQRコードからインストールし、「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることができます。

●詳しくは、巻頭の記事をご覧ください。



1 本部公園「チンクワールド」



南風原町の沿道に咲く黄色や赤の「かななの花」が綺麗！特に本部地区は「かななロード」とも呼ばれています。



Happy town

HAEBARU TOWN

favorite
HAEBARU
お気に入りがいっぱいの南風原

1 本部公園にある「チンクワールド」。南風原町にある公園って本当に綺麗に整備されていて、休日には遠くから訪れる家族連れや子どもたちでぎわいます。2 3 4 宮城公園にある「ビュリーランド」南風原町の特産品のへちまをモチーフにした遊具がカワイイ。幼児向けの遊具コーナーも充実。5 6 7 大人でも楽しめるストレッチやトレーニング用の健康器具も完備。8 お子様生まれ、出生届を役場に提出した際にプレゼントしてもらえる「はえるんBABY in CARシール」9 6月頃になると宮平ではひまわり畑が満開になり観光客が訪れるようになりました。10 南風原のイベントやまつりで歌や踊りを元気に披露する「よなは学童クラブ」の皆さん。



Enjoy Haebaru

HAEBARU TOWN

favorite
HAEBARU
お気に入りがいっぱいの南風原

1 はえるんがデザインされた自動販売機は売上の一部をかななの花植付け&管理の運営資金に活用されています。2 見てると心なごむ無人販売所(津嘉山) 3 南風原の町花ブーゲンビリア 4 「南風原物産展」や「東部消防組合の防災・救急フェア」会場にもなっている大型ショッピングセンターイオン南風原店 5 宮平獅子舞保存会の皆さん。女性の地謡を起用した新しい取り組みにもチャレンジしています。6 勇ましい舞の方極も演舞終了後はにっこり笑顔が素敵なおじ様方に变身(津嘉山) 7 エイサーに華を添える女性の踊り手の皆さん。小学生のメンバーもいて、幼い世代から伝統の継承に取り組んでいます。(津嘉山青年会)



南風原 TOWN MAP

南風原町は12の字(あざ)から成る県内で唯一海岸に面していない町です。高速道路や主要幹線道路が通る交通アクセス抜群のエリアに位置しており、琉球かすり・花織等の伝統工芸や、かぼちゃやヘチマの生産地として知られています。また、各字に伝わる多くの民俗芸能や平和を伝える戦跡等が、世代を超えて守り、受け継がれており、豊かな自然と伝統文化に恵まれた町です。



南風原町は那覇市の東側にあつて、北部は首里と隣接しています。そのため、琉球王朝時代には、王族が南部へ行く際に必ず南風原町を通つたと言われており、交通の要となっていました。現在の南風原町を見ても東西南北へ連なる主要幹線道路があり、人や物流の重要な位置になっています。

南風原町とは「南風が吹く豊かな土地」という意味なんだよ！南風ムードも感じさせるロマンチックな町名だね！

黄金森公園陸上競技場は名古屋グラウンドの沖縄春期キャンプ地として利用されています。町民一体となって応援するんだね！

南風原町内の公園(神子)からもたくさんのお子様連れの方々が訪れる人気のアスレチックや、国内唯一のアイススケート場や、アメリカン施設も充実しているのよ。みんな来てね！



16 沖縄県公文書館

48p~49p 参照

17 ちむくくる館(総合保健福祉防災センター)

05p 参照

18 ファーマーズマーケット南風原くかに市場

19 花・水・緑の大回廊公園

08p 参照

20 本部公園(野菜王国デンクワランド)

08p 参照

21 宮城公園(ビューリーランド)

08p 参照

22 黄金森公園(はえるん広場)

06p 参照

12p~15p 参照

23 かすりの道(15頁参照)

06p 参照

かすり

琉球

RYUKYU KASURI

かすりの里
南風原町



琉球かすりの歴史

遠くインドに源を発し、東南アジア各地に広がった緋が、琉球王府の大交易時代の波に乗って、沖縄に入ったのが14~15世紀ごろ。それ以後、中国・日本や東南アジアの影響を受けながらも、琉球の気候・風土に合った独自の緋が沖縄各地でつくられ、その緋が、海を越え、薩摩緋、久留米緋、米沢琉球緋、伊予緋など日本の緋のルーツとなりました。

琉球王府時代から織物の産地として知られた南風原は、たえまぬ技術導入・改良と職人たちの努力を、営々と積み重ね、現在では「琉球かすり」のほとんどが南風原町でつくられています。これからも「琉球かすりの里」として、祖先から受け継いだ伝統と時代に合った感覚で、永く愛される緋をつくり続けていきます。

HISTORY OF RYUKYU KASURI

Originating in far-away India and spreading throughout Southeast Asia, kasuri (ikat) entered what is now Okinawa from the 14th to the 15th century, when the islands were ruled by the Ryukyu Kingdom and enjoyed a thriving trade. There gradually developed a distinctive style of kasuri production in all parts of Okinawa that, while exhibiting Chinese, Japanese, and Southeast Asian influences, was adapted to the unique Ryukyu climate and culture. This Ryukyu kasuri crossed the seas and formed the roots of Satsuma, Kurume, Yonezawa Ryukyu, Iyo, and other types of Japanese kasuri. The town of Haeburu has been renowned as a major site of kasuri production since the days of the Ryukyu Kingdom. Thanks to the constant introduction and refinement of technical know-how as well as the unflagging efforts of craftspeople over the generations, almost all Ryukyu kasuri is now produced in Haeburu. As the cradle of Ryukyu kasuri, the town is committed to continued production of kasuri articles that will long be cherished by their owners, by combining the tradition carefully passed on from ancestors with esthetics attuned to the times.

ひと糸、ひと織、丹念な手仕事の美
琉球の技と心が、南風に乗って…



第30代
琉球かすりの女王
ミセスあいぞめ
津嘉山咲子さん

第30代
琉球かすりの女王
ミセスブーゲンビリア
赤嶺マキさん

※帯は南風原花織と紅型との
コラボ作品になります。



琉球かすりの特徴と技法

琉球かすりの大きな特徴は、およそ600種という多彩な図柄。これら爽やかな涼感をさそう幾何学模様の図柄は、琉球王府時代から伝わる「御絵図帳」をもとに、職人たちが現代の感覚を取り入れて、オリジナルをつくりあげます。

この図柄をもとに、糸を染め上げる時、少しずつ束ねた糸を計算された間隔で、模様の部分のみ1カ所ずつ手括りでしめあげていくという大変手間のかかる方法で、独自の緋模様をつくります。

織りは、緯糸を経糸の間に杼(ひ)を通して織っていく昔ながらの技法で、1日に2mぐらいうずつ丹念に織りあげていきます。



CHARACTERISTICS AND TECHNIQUES OF RYUKYU KASURI

The major characteristic of Ryukyu Kasuri is the approximately 600 types of multi-colored patterns. Geometric pattern designs reflecting fresh and cool feelings have been transmitted since the Ryukyu Royal Administration period according to a "Miezu-cho" - a design book, artisans incorporating contemporary senses to create originals fabrics.

With those designs as backbone, before dyeing the whole threads, each design part is hand tied one-by-one at calculated intervals on threads that are little by little tied up in bundles. This method requires a great deal of time, yet allows for the creation of unique Kasuri designs.

The fabric, woven by throwing weft threads in between warp threads, is made by utilizing an old technique, enabling one to be as meticulously weave approximately 2 meters of fabric per day.



「琉球かすり」を守り、育て、繋げる 後継者育成事業

南風原町では琉球絣事業協同組合が主体となって、先人から受け継いだ琉球絣の伝統的技術、技法を守り、将来の担い手となる技術者の育成に取り組んでいます。
「後継者育成事業」として受講生を募集し、約8ヵ月かけて機織りを中心とした琉球かすりの技術、技法、染色、デザイン等の基礎を学んでいきます。

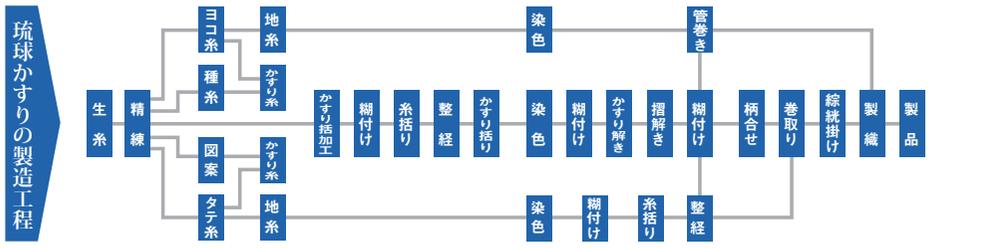


「琉球かすり会館」のスタッフの皆さん。「ギャラリーでは琉球かすりや南風原花織を使った洋服や小物等を販売しているので、伝統工芸を身近に取り入れたいと話す野原八重子理事長(右から2人目)。後ろ見えるのは「琉球かすり」と「南風原花織」の反物。その品質と伝統工芸技術の高さは全国的にも認められており、県外から直接買い付けに訪れるお客様もいるものなげます。



「琉球かすり会館」展示販売ギャラリー

かすりが出来るまで



かすりの道

南風原町の「照屋」・「本部」・「喜屋武」の3つの集落は古くからかすり産業の盛んな地域として栄え、織物の工房や糸張り作業場などが集まっています。
古い時代の情緒が残るこのエリアは『かすりの道』として整備され、一周約2kmにおよぶ石畳の歩道には「琉球かすり」模様と民家の壁にかすりの図柄がほどこされているのが特徴です。
地元ガイドの案内で散策する『かすりの道まちなみ』などのイベントも開催され、「織物のまち・南風原町」を体験できる散策ルートとなっています。



1 大城廣四郎織物工房(本部) 2 大城機織製作所(本部) 3 手織工房おしる(照屋) 4 仲村トミ子(喜屋武)



「かすりの道」周辺の民家の壁にはかすりの図柄がペイントされ、そばに添えられた図柄の解説を読むと散策しながら琉球かすりについて学ぶことができます。ペイント柄は町内の小学生の手によって描かれたものです。

琉球王府の「御絵図帳(みえずちょう)」に定められた600種もの多彩な図柄。ひとつひとつの図柄に意味があります。

琉球かすりには多彩な幾何学模様が織り込まれていきます。植物・動物・生活用品などをモチーフにした模様で、琉球王国時代の「御絵図帳」を元に、職人たちが現代の感覚を取り入れてオリジナルをつくりあげます。
「御絵図帳」とは、絵図奉行によってまとめられた図案集。琉球かすりが貴重な貿易商品だった時代、王国に収める貢納布を織らせるために模様や染色などを細かく指定したものです。

- イチチマルグム**：5つの丸い雲を表現した文様。琉球かすりの代表的な柄のひとつ。
- ハナアシー**：三筋を織り合わせて、花の形を2つ、段違いに並べた文様。
- ミミチキトニー**：耳付き(取手付き)のエガ箱や湯船などの四角い容器のこと。
- ビク**：ベッコウをあしらった吉祥文様で、長寿祈願の思いを込めている。
- イーチンピーマ**：振り箏に似た文様。かすりなかすりや、小さくかすりとしてよく用いられる。
- プリブサー**：かすりや織かすりの重なりで地色との対比を強調。夜空の群星を表現。
- トウイグワ**：2羽で飛ぶ鳥小を表した文様。琉球かすりの中で最も多く用いられる。
- 経緯かすり(たてよこがすり)**：八たに似たかすり2つと2つの四角は、かすり全体にバランスよく配置される。
- カギュー**：チベなどをあしらった水かきと呼ばれる模様です。

琉球かすり会館 [琉球絣事業協同組合]

琉球かすりの普及活動と販売、後継者育成の場として、かすり事業の拠点となっています。展示販売のコーナーの他、見学や機織りの体験をすることもできるので、親子連れで伝統工芸「琉球かすり」を学ぶことのできる絶好のスポットです。

南風原町本部 157
 会館時間▶9:00 ~ 17:00 (閉館 17:30)
 休館日▶祝日(年末年始、旧盆)
 TEL: 098-889-1634 FAX: 098-889-1634

スマホで「琉球かすり会館」の様子が見えます!

スマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をお使いの機種に合わせて、QRコードからインストールし、「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることが出来ます。

詳しくは、巻頭の目次をご覧ください。



●琉球かすり会館にて販売中

南風原花織

母から娘と伝わっていった伝統技法

南風原花織の技法は明治の頃から母から娘へと伝承され、その後大正時代には喜屋武八幡、照屋花織など独自の花織、浮織の技法を確立しました。南風原花織の特徴は、染色に県内の琉球藍、福木、テカチ等の植物染料を用いることです。また、ヤシラミ織、クワンクワン織、タッチリーなど、産地にしか存在しない名称があり、その模様は花のように美しく多様な色彩の花糸を使った立体感のある浮き柄が魅力的で、高い人気を得ています。



花織 織物作家 伊敷美千代さん・大城ヨシ子さん・富山アヤ乃さん
花織技術者である母ヨシ子さんより師事した美千代(長女)さんとアヤ乃(次女)さんによって開かれたのが、織工房「由」です。ヨシ子さんは「娘と一緒に作ることができ、跡を継いでいることがうれしい」と感慨深げ。特にアヤ乃さんの結婚式には3人の共同作業による結婚披露宴の衣装を仕立てた事が何よりも嬉しかったそうです。花織の伝統を受け継ぐ親子の絆の強さが伝わってきます。



素敵な南風原町の特産物いよ〜♡

南風原良品

琉球かすりや南風原花織の伝統工芸品から栄養豊富な食材で作られたおいしいもの、ユニークなアイデアが詰まった特産品まで、南風原良品が揃っています。



織物作家 大城 拓也さん
大城廣四郎工房の3代目となる拓也さんの目標は「祖父や父が守ってきた伝統を継ぐこと」と「新しい沖縄の着物を作ること」。新たな染め織りの技法を組み合わせ、洗練された手織を発信したい」と語る。絆の可能性を追求したいとの思いでNU工房を立ち上げ創作した作品は国内・海外のアパレル業界から注目されています。



●琉球かすり会館にて販売中

琉球かすり

伝統の琉球かすりを身近に楽しむアイテムが勢ぞろい

南風原町は昭和52年に日本全国へ「琉球かすりの里」を宣言したかすりの産地で、町内の本部、喜屋武、照屋の3カ字を中心に生産されています。昭和55年には「琉球かすり会館」が建設され、原料糸、染料、織物機材の共同購入、共同販売、後継者育成、技術研修などの事業を行っています。ひと織、ひと織、丹念に織られたかすりの他、かすりを使ったバック、袋物、ネクタイや最近ばかりゆしウェアも好評です。



MAP ① you-i FACTORY (ゆーいふぁくとりー)

おしゃれなハブ革のオリジナルグッズ
沖繩初のハブ革・ハブ骨を使った新たな工芸品の創作に取り組んでいる工房。県内で捕れた「県産」のハブだけを使って、鞆し(なめし)・製骨など素材からデザイン製造までを一貫して行っています。お洒落なデザインアイテムに金運UPの効果が高いと言われるハブ革素材と、魔除け、厄除けの効果としてのお守りになるハブ骨を使用したアイデア商品が評価され、2014年に商工会特産品コンテストで最優秀県知事賞を受賞しました。



代表 幸地 賢尚さん



☎098-888-0126
〒980-0000 南風原町字新川1583
11:00~19:00
日曜、祝日



MAP ③ ふで工房一書

世界に一つ! 一期一会の想いを書に込めて...

感謝の気持ちや、伝えたい想い・願いをオリジナル書体「you 癒書(ゆーじょ)」に込めて届ける書人(かきんちゅ)の野原恵子さん。お客様の声と想いを聞き入れ、ポムエやポストカード、しおり等にしたためられた「癒書」には人の心の暖かさや素直な気持ちにさせる幸福感が伝わってきます。世界に一つだけの作品として贈り物として喜ばれています。また、出張教室も開催しており、文字の楽しさを伝えています。



書人(かきんちゅ) 野原 恵子さん

MAP ② 窯元 南風窯(ふえ〜がま)

ぬくもりと愛らしさのある陶芸品
シーサーを専門に、花器や、酒壺などを制作する仲村葉さん。ほかに、ガンジュシーサー、カラオケシーサー、ランプシェードなど、他にはないユニークな作品を創作しています。今にも動き出しそうなシーサーはどれも、表情や色が違い見比べているだけで時間が過ぎてしまいうそう。ご自宅の趣味や部屋に合わせたお気に入りを探しに来てください。陶芸体験も開催しています。
☎ 098-888-5180
携 090-7154-3747
〒980-0000 南風原町字津嘉山210番地
☒不定休 ※作品は「はえばる観光案内所」でも販売中



陶芸家 仲村葉 哲夫さん



「書」と南風原町特産「琉球かすり」とのコラボ作品

☎090-1513-1143 (14:00以降〜)
〒980-0000 南風原町字津嘉山1665-1B-201
※作品は「はえばる観光案内所」
「ファーマーズマーケット南風原」が市場にて販売中



MAP ④ NPO法人南風原町障がい者支援センター 福祉事業所 ほんどinほんど

とうみつせっけん
糖みつの保湿効果でお肌しっとり、お肌にも環境にも優しい石鹸です。
原材料には100%食用オリブ油、パーム油、ココナツ油を使い、廃油は一切入っていません。保湿効果にも優れているといわれる糖みつに抗菌効果や香り用として、月桃水と緑茶をブレンドしました。業事法と表示法の関係で、「台所用石鹸」と表示していますが、高級化粧石鹸と同等以上の原材料を使用しています。
※「化粧用品石鹸」と表示するには、「ほんど in ほんど」のような小さな投産施設では非常に厳しいのが現状です。



健康手作り

からだにやさしいクッキー
卵と牛乳を使用しないアレルギーのある子どもにも安心「からだにやさしいクッキー」
「からだにやさしいクッキー」は、南風原町特産のかぼちゃを粉末状にして使っている栄養満点の焼き菓子です。アレルギーをもつ小さなお子さんにも安心して食べてもらえるように、卵や牛乳は使わず、自然風味の優しい味をいかにしています。他にも、にんじん入り、ひじき入りのクッキーをご用意。セットになった「からだにやさしいクッキー」はご贈答にも喜ばれるお菓子です。



ほんど in ほんどの皆さん。心を込めて丁寧に作りこむ作業が商品に活かされています。

☎098-888-3224
〒980-0000 南風原町字照屋1
☒8:30~17:15
☒土曜・日曜、祭日
◎贈答用も受付しております。



「はえばる美瓜」を宣伝するキッズダンサーチームが「Beaury's(ビューリース)」南風原町から「へちま大使」、町内外のイベントでPR活動をしています。

びゅうりー
はえばる美瓜

食用へちまの生産日本一!

南風原町は食用へちまの生産量が日本一。沖縄の方言でへちまは「ナーベラー」と呼ばれ、野菜の収穫量が減る夏場には貴重なビタミン補給源となってきました。へちまの中でも南風原で生産されるものは「はえばる美瓜(びゅうりー)」と呼ばれ、加熱するとふわふわの柔らかさとツルっとした食感が特徴です。沖縄では味噌煮や炒め物に入れるのが昔からの定番ですが、最近ではピクルスにしたり、カレーや麻婆へちまなど、食材としての幅が広がっています。町では「はえばる美瓜」のレシピコンテスト等も開催しPR展開中!



かみどり やすし かつみ
神里 靖・和美さん夫妻
父親から畑を受け継ぎ、露地栽培、ハウス栽培で「はえばる美瓜」の安定した出荷を目指す。農作業中も笑顔の絶えない仲のいい夫婦です♥。

南風原産かぼちゃ

南風原町のかぼちゃは高級料亭でひっぱりだこ!

南風原町の特産品といえば、なんといっても「かぼちゃ」です。県内でも高品質のかぼちゃとして有名です。南風原町で生産されているエビス種の西洋かぼちゃは柔らかくて味がよく、完熟すると糖度が20度をこえる強い甘みが特徴です。「津嘉山完熟かぼちゃ」「南風原かぼちゃ」のブランド名で、県外の高級料亭などへ出荷されます。県内でも入手しにくい「幻のかぼちゃ」と言われています。



さんじょう ともかず
津嘉山完熟かぼちゃ生産農家 **金城 盛幸**さん
「寒い時期に成長させるために温度や雨に気を遣う時期が長いので、いるいと手間が掛かりますが、品質のいい状態で収穫した時は苦労が報われる気がして、やりがいを感じます!」と笑顔で話す金城さん。姿、艶、味の三拍子そろったかぼちゃは市場では「緑のダイヤモンド」と称されています。



品質ナンバーワン!

2月頃から
ファーマーズマーケット
南風原くひの市場で
購入できます



スターフルーツの花はピンクの小さなかわいらしい花を咲かせます。

拠点産地

厳選優良卵

ケーキのお店 Duo
スターフルーツを使った
マドレーヌ「ゆめかえぼし」



MAP 美ら卵養鶏場
EMアスタキサンチンたまご「黄金森」

『美ら卵養鶏場』は自社農場から直送される生みたて卵の直売店。看板商品のEMアスタキサンチンたまご黄金森は、驚く程にコクがあり生臭さが少なく半熟で食べるとココの深さが感じられる美味しい卵です。常に美味しい卵の生産を追求しエサにこだわり、海藻・よもぎ・木酢液をエサにブレンドして、さらにファア酵母、EM菌を鶏に与えることで「アスタキサンチンたまご黄金森」が誕生しました。ケーキとたまごの店CAKE&EGGは姉妹店です。



もみぞと はじめ
代表取締役 **諸見里 元**さん



☎098-889-1950
住 南風原町宇兼城 293 番地
時 11:00~18:00 〆なし

スターフルーツ(ゴレンシ)
星形の切り口が愛らしいフルーツ

かわいらしい星形の切り口と爽やかなクセのない甘さが特徴の「スターフルーツ」。食物繊維が豊富で、ビタミンCも多く、抗酸化作用により風邪予防・美肌効果にもよいとされるほか、腸腸作用も高く栄養たっぷりの果物です。県内の生産量のうち約70%を南風原町が占め、今後も様々な特産品の開発などに期待されています。2015年、出荷計画や増産計画などの取り組みが評価され、南風原町をスターフルーツのモデル産地として沖縄県から拠点産地の認定を受けました。



さんじょう ともかず かねやま ともかず てるし
左から **金城 親**さん、**宮城 光雄**さん、**照屋 聡**さん
「ジャムやゼリーなどに最適ですが、サラダのトッピング、漬物、ピクルス、蜜漬としてもおいしいですよ」と話す宮城さん。「金城さんや照屋さんのような若い生産者も増えているので、スターフルーツを使った新たな商品開発にも取り組みたい」と話してくれました。

生産高日本一



さんじょう ひろこ
生産農家 **金城 弘子**さん
「植物は愛情を注いだ分、綺麗な花を咲かせ応えてくれるものです」と話す金城さん。生け花としてストレリチアの切り花は三回咲き、長く楽しめます。また葉っぱも観賞用として利用出来るので花き愛好者から大変人気のある植物です。

ストレリチア(極楽鳥花)

南国の切り花の女王
「輝かしい未来」を予感させる花です。

優美なフォルムと鮮やかなオレンジ色で、トロピカルな切り花の代名詞として親しまれる「ストレリチア」。そのフォルムから「極楽鳥花」の和名でも知られています。花言葉は「輝かしい未来」。華やかな姿と緑のいい名前や花言葉で全国でも高い人気です。南風原町では、年間に約100万本を栽培しており、その約95%が県外に出荷されています。南風原町にあるJA津嘉山支店(つかさん)では、1994年にストレリチアの産地宣言をしました。



MAP ⑥ ケーキのお店 Duo (デュオウ)
完熟かぼちゃを練り込んだ人気 No.1 の「津嘉山ロール」
スターフルーツを使った「ゆめかなえぼし」

地元津嘉山の完熟かぼちゃを自家製ピューレにして、生地に練り込んだふんわり生地の「津嘉山ロール」。ほんのりと感じるかぼちゃの風味と甘さ控えめの生クリームは幅広い年代層に喜ばれている人気の味です。平成26年には南風原町商工会の特産品開発事業から生まれた南風原町特産のスターフルーツを使ったモデルズ「ゆめかなえぼし」を販売。かわい星形にほかでは味わえない一品として注目されています。何よりも町内の小学生から公募して決めたというネーミング「ゆめかなえぼし(夢を叶える星)」に★3つ。

☎098-888-3678
 南風原町津嘉山 1597-3
 10:00~21:00
 火曜日、旧盆、年末年始



代表 赤嶺 彰弘 さん(中央)
 (左)久祥子さん・(右)彰弘さん
 家族で農業を営む「サンゴ園芸」。モリンガ以外にも、自然栽培で有機アミノ酸肥料を使用し、生産された野菜や熱帯果樹も取り扱っています。

MAP ⑧ モリンガファームさんご園芸
奇跡の木、美容と健康に「モリンガティー」

モリンガは北インド原産の「ワサビノキ科」という科目に属する植物。葉と花はお茶やハーブとして、種はオイルに、根は香辛料や漢方薬など利用価値の高いことから「奇跡の木」「薬箱の木」とも呼ばれています。さんご園芸では大地の恵みを活かした自然栽培方法で「モリンガティー」を商品化。腸内環境を整えるデトックス効果や、アミノ酸やギャバを多く含むことから精神安定やストレスを軽減させる効果があると言われています。いろいろなお料理や飲み物に入れてお使いいただけるよう粉末タイプもあります。

☎098-889-5562 FAX 098-889-5564
 南風原町字神里 496-2
 9:00~19:00
 休 盆、正月



MAP ⑦ 瑞泉酒造株式会社
老舗蔵元と“南風原”がコラボした銘酒泡盛

南風原町と県内の大手老舗泡盛メーカーの瑞泉(ずいせん)酒造とのコラボレーションから生まれたお酒が、琉球泡盛「南風原」です。2013年10月に開催された「はえるんフェスティバル」で町民投票により、試飲ラベル選定が行われ、南風原のお酒として誕生しました。南風原町内に酒造蔵を構える瑞泉酒造とタッグを組み、味やデザインを町民参加で作り上げた地元メイドの泡盛です。通常タイプの他にも5年古酒タイプもあります。

☎098-884-1968 FAX098-886-5969
 沖縄県南風原町宇宮平 319-1
 9:00~17:20
 第2・4土曜、日曜、祝祭日



MAP ⑩ 就労継続支援事業所 かすりくらぶ
南風原町の特産品が結集「3Bバーガー」

3Bバーガーは、「てるしのワークセンター」が手掛ける町産かぼちゃを練り込んだパンズ(B)、「その名の里」が飼育する「はえぼる豚(B)」を100%使ったポークパテ、「かすりくらぶ」が作る「はえぼる美瓜(びゅうりー)(B)のへちまピクルス、「諸見里エッグハウス」直営養鶏場の新鮮なタマゴや無添加マヨネーズなどが挟まれた、「南風原のおいしいもの」を詰め込んだハンバーガーです!!

3Bバーガーの由来は、3ヶ所の就労継続支援B型事業所で生産している事から名付けられました。

☎098-888-0204
 南風原町字兼城 130
 11:00~15:00
 土・日曜、祝祭日



MAP ⑫ 就労継続支援事業所 かすりくらぶ
南風原町の特産品が結集「3Bバーガー」

3Bバーガーは、「てるしのワークセンター」が手掛ける町産かぼちゃを練り込んだパンズ(B)、「その名の里」が飼育する「はえぼる豚(B)」を100%使ったポークパテ、「かすりくらぶ」が作る「はえぼる美瓜(びゅうりー)(B)のへちまピクルス、「諸見里エッグハウス」直営養鶏場の新鮮なタマゴや無添加マヨネーズなどが挟まれた、「南風原のおいしいもの」を詰め込んだハンバーガーです!!

3Bバーガーの由来は、3ヶ所の就労継続支援B型事業所で生産している事から名付けられました。

☎098-889-1335
 南風原町字兼城 651-1

MAP ⑬ 玉木製菓
県民が大好きなお菓子「かめせん」「おかし」「えびせん」

「かめせん」といえば、昔若男女、沖縄県民が大好きなお菓子。素朴でシンプルな飽きのこない味わいで、昔から愛され続ける駄菓子です。その多くの銘銘を送り出しているのが南風原町に工場を構える「玉木製菓」です。おやつやお土産にも喜ばれるなつかしいお菓子たち。最近人気なのが「梅小亀」某航空会社のCAの間では「小梅ちゃん」として人気があり、誰かしらが沖縄に飛んでお土産で買って帰るとあっていう間に無くなる逸品の事。リーズナブルな価格もGood!

☎098-889-1335
 南風原町字兼城 651-1

日本初「ヘナ」栽培加工に成功!
 新たな南風原町の特産品が誕生!

MAP ⑬ 仲里農園 (なかざとのうえん)

琉球ヘナ 琉球ブルー(インディゴ)

本当に美しい髪、頭皮を作るのは自然のチカラです。化学の力に頼らず、植物の色素だけで白髪を染められ、頭皮のケア・デトックスまでできる琉球ヘナは沖縄の豊かな自然からの贈り物。日本国内では栽培困難とされてきたヘナの栽培加工に成功させた代表の仲里盛盛さん。同時に開発した「琉球ブルー」は藍染めの原料となる植物インディゴを使用したもので「琉球ヘナ」と兼用することで、より美容効果の高い毛染め効果が得られるという。

ヨーロッパ諸国では化学染料を使用した毛染めは禁止の為、美容・理容業界からは天然素材のヘナが注目されています。

代表 仲里 盛盛 さん
 ☎090-2710-2781
 南風原町字津嘉山1682番地
 フェアーズマーケット南風原が丘市場
 フェアーズマーケット南風原が丘市場
 はえぼる観光案内所に取扱販売中

南風原町の夏まつり



Haeburu Town Festivals

伝統と新しさが人を熱くする。

先人から受け継がれた豊かな伝統芸能や、さまざまな世代がひとつとなって楽しめるイベントなど、南風原には守るべきものと新たに生み出されるチカラがうまく調和したエネルギーなまつりが開催されています。

Tradition and Innovation Drive the People of Haeburu

Majestic traditional performing arts handed down from our ancestors and enjoyable events bringing together many generations, these and other energetic festivals are held in Haeburu Town where preserved tradition and innovative power blend in true harmony.



はえばる夏まつり 7月 キッズパーク

「三線体験」「沖縄そば作り体験」「お仕事体験」など、沖縄情緒あふれるイベントがいっぱい。夏休みの工作作り、思い出づくりに、親子一緒に楽しめる様々な体験コーナーが企画されています。



※体験イベントは一部有料です。



11月

南風原青年フェスタ(隔年)

隔年11月に開催され、各地区に受け継がれるエイサーや獅子舞などの伝統芸能を青年たちが勇壮に繰り広げます。幼稚園や小学生の子供たちによる唄やダンスなども披露され、南風原ならではの伝統芸能を見ることができます。

【開催日】隔年(西暦の奇数年)11月



新川青年会



神里青年会



南風原青年フェスタ



南風原総合文化祭 11月

文化協会会員の日頃の活動の成果を一堂に集めた「南風原総合文化祭」。展示と舞台の2部門に分かれ、200名を超える会員が各々の集大成を発表する場となっています。

かすり駅伝小学生大会 11月

琉球餅の里として知られる南風原町では、毎年11月3日を「かすりの日」と定め、それを記念して、毎年、小学生による「かすり駅伝」が開催されます。



津嘉山の綱曳き



喜屋武の綱曳き

兼城の綱曳き 龍蛇「ジャー」。ジャーの口から放たれる聖なる火は、災いや汚れを焼き清めると云われています。



綱曳き(各字にて開催) 8月

旧暦6月25・26日に各字で綱曳きが行われます。「真夜中のケンカ綱曳き」として県外にまで名をとどろかす喜屋武(きやん)の綱曳きのほか、旗頭や踊りが登場したり競技のルールが異なったり、ひとつとして同じ綱曳きはありません。イベント化された行儀にはない地域に密着した伝統と情緒を感じられることから、毎年多くの見物客で賑わいます。

綱曳きが行われる9つの字

- 宮城(みやぐすく) ■宮平(みやひら) ■本部(ちとぶ)
- 与那覇(よなは) ■喜屋武(きやん) ■兼城(かねぐすく)
- 山川(やまがは) ■照屋(てるや) ■津嘉山(つかやま)



南風原町内字綱曳きツアー 有料

同じ日に開催される綱曳きの中から3~4カ所をツアーバスで巡ります。また、ツアーの間にはお食事も用意されており、地元の名産を頂けます。

お問い合わせ
南風原町観光協会 電話:098-851-7273

南風原町の年間行事

- 1月 ●町成人式 ●新春マラソン大会 ●飛び安里(とびあさと)風揚げ大会
- 2月 ●生涯学習・公民館まつり ●南風原物産展
- 3月 ●卒業式
- 4月 ●町功労・善行・よいこと沖縄一 ●入学式
- 5月 ●こいのぼり掲揚式 ●シニアスポーツ大会
- 6月 ●平和と戦争に関する企画展
- 7月 ●「青少年の深夜はいかい防止」「未成年者飲酒防止」一斉行動 ●ウチナーグチ大会 ●「少年の主張」南風原町大会 ●はえばる夏まつりキッズパーク
- 8月 ●綱曳き(町内各字)
- 9月 ●町陸上競技大会 ●町小中学生陸上競技大会 ●慶祝訪問 ●町敬老会
- 10月 ●町民平和の日 ●児童館まつり
- 11月 ●南風原総合文化祭 ●かすり駅伝小学生大会 ●はえばるふるさと博覧会(隔年) ●南風原青年フェスタ(隔年)
- 12月 ●教育の日 ●ちゅら島町内一斉清掃



南風原ふるさと博覧会

はえばるふるさと博覧会(隔年) 11月

2年に一度開催されるイベントで、南風原の工芸品や伝統芸能が集まります。「南風原・琉球かすりの女王コンテスト」は、琉球かすりを全国に宣伝する「琉球かすりの女王」を決定。

【開催日】隔年(西暦の偶数年)11月



南風原・琉球かすりの女王コンテスト



25年ぶりの組踊「忠臣身替の巻一重瀬」



狂言「ハイカラ娘」



「長者の大主」【喜屋武】

無形民俗文化財

旧暦八月十五夜の祭りなどに演じられる祝賀の芸能で、内容は120余歳の長者の大主が、八月十五夜遊びに招かれて、村の守護神である獅子加那志に子孫繁栄と弥勒世界報の祝言を述べ、多くの子孫たちに芸能を演じさせ祝い遊ばすというもの。喜屋武の住民が最も誇りとして代々継承してきた芸能で、南風原の民俗芸能を知るうえで極めて貴重です。



宮平の女踊り「総掛」

無形民俗文化財

戦後、二曲組で演じられるようになった「総掛」のなかで、南風原町宮平の「総掛」は三曲三部仕立てとなっており、古典女踊りの伝統的な型を保持している貴重な芸能。

南風原町の 民俗芸能

Folk Performing Arts in Haebaru Town

南風原町には獅子舞や舞方棒のような一種のはらい(災厄を払う)芸能や八月十五夜の村あそびの中で伝承されてきた数々の芸能が残っています。どれも、先祖のこころを今に伝える貴重な財産です。

Intangible Folk-Culture Treasures

In Haebaru Town, the lion dance, stick dance and other types of purifying performing arts (to exorcise evil) along with amusements and traditional games are enjoyed on the night of August 15th. Many performing arts, which have been handed down, are being preserved and maintained. They are all precious treasures that communicate the spirit of our ancestors to the present day.



照屋の舞方棒

舞方棒

無形民俗文化財

【宮城・兼城・喜屋武・照屋・津嘉山・神里】

舞台や祭事などの場における清めの開幕舞踊で、力強い棒の舞いによって疫病・災害・悪霊を払う意味があります。南風原町では6つの字(あざ)で受け継がれており、それぞれに振り付けなどに違いがあります。

南風原町津嘉山の舞方棒



喜屋武の舞方棒



兼城の二才踊り

アザビ、チク、チン

「揚作田」

無形民俗文化財

二人組みの代表的な二才踊りで、「御冠船踊」として、先祖代々から八月十五夜の「村遊び」において伝承されてきたものです。両手にゼイを持ち、腰を深く入れた構え、活発な足の運び、力のこもった手の振りなど、動きが力強く大らかに伝統の古さを感じさせる踊りとなっています。



本部のハーペールモーイー

2014年に63年ぶりに復活した「ハーペールモーイー」は男女の恋愛を表現した踊りで、女性2人が花の役、男性2人がチョウの役を演じます。



宮平の獅子舞「マーイ手」

2014年、ハワイに残された資料をもとに復活(創作含む)

獅子舞【宮平・喜屋武・本部】

無形民俗文化財

沖繩に古くから伝わる一種のはらい(災厄を払う)芸能。南風原には宮平、喜屋武、本部に伝わり、各字によって、型や獅子頭などに違いがあります。



喜屋武の獅子舞



本部の獅子舞

伝統芸能への思い



保存会 VOICE!

宮平獅子舞保存会 町田宗貴さん



高校生から20代前半の若いメンバーで構成されています。首里から伝わり約100年の歴史をつなぐ「宮平の獅子舞」に誇りをもち、青年会OBや獅子舞保存会の方々熱心な指導のなかで、その伝承と踊りの技も向上させ、会員数も着実に増やしてきました。

地域イベントの参加には完璧な演舞を目指し、しっかりとした練習時間を設けるほか、「大きな舞台を経験し、感動を味わってほしい」との思いから、新人である高校生をいち早く舞台へあげています。

また、新しい取り組みにもチャレンジし、地謡では珍しい「女性」を起用するなど、幅広い活動をおこなっています。

保存会 VOICE!

照屋舞方棒保存会 我喜屋佳祐さん



戦後70年ほどの歴史のなかで、一時、活動が途絶えていた照屋青年会でしたが、2011年に復活しました。おもな活動は照屋区のスポーツ行事などの運営のほか、首里から伝わったとされ、南風原町の無形文化財の舞方棒(メーカターポー)を伝えていく役目を担い、演舞の披露もおこなっています。その「型」は2種類あり、うちひとつは「五穀豊穡」を祈願し、田んぼの畦道を歩く様子も表現されています。

2014年には、スイスで開催された「空手大会」での遠征も経験しました。今後活動の場を拡げていきたいと思えます。

南風原町指定

文化財

Haebaru Town Designated Cultural Properties

南風原町の歴史を尊び、後世に残していきたい文化財

南風原町には歴史的に価値の高い、かけがえのない共有財産である有形・無形文化財、史跡、天然記念物が数多く残されています。町ではこれらを大切に守り育て、文化の香り高いまちづくりを進めています。

Respect for the History of Haebaru Town, Cultural Properties to Pass on to Future Generations

In Haebaru Town, there are many tangible and intangible cultural properties, historical sites and natural monuments that are community treasures of great historical value. We carefully protect and foster these as we endeavor to create a town with a rich historical flavor.



1 大名ヒージャーガーと石碑 [大名] **史跡**

首里に向かう旧街道道路脇のヒージャーガーと呼ばれる坂道にある共同井戸。碑文によると、この道路は雨天時に往來で渋滞するので1769年にこれを改修し、樋川を築かせたそうです。井戸の口は直径1メートルの楕円形をしており、井戸の横には漢文で由来を記した石碑があります。王府時代に久高島や斎場御嶽に向かうの王妃一行が休息のために立ち寄った場所とされ、この水のおいしさを褒めたたえ記念の碑を建てたという伝承もあります。



4 中毛小のガジュマル群 [喜屋武] **天然記念物**

喜屋武にある中毛小には、ガジュマルの老木が並び、互いの根が網の目状にからみつき、悠々と大地にそびえています。樹皮には凸凹があり、コケ類が着生するなど古木の風格が漂っています。町内には大木のガジュマルが群がって生育しているのは珍しく、残念ながら倒れてしまった木もありますが、喜屋武のシンボルのような存在で今なお誇らしく区民を見守っているようです。



5 沖縄陸軍病院南風原壕群 [第1外科壕群・第2外科壕群] [喜屋武] **史跡**

町内を見渡す小高い丘にある黄金森(こがねもり)。ここには、かつて第二次世界大戦時、日本軍が沖縄戦に備え構築した沖縄陸軍病院南風原壕群があります。院長以下、軍医、看護婦、衛生兵、ひめゆり学徒らがここで傷病兵らの治療にあたりました。南風原町は1990年、戦争の悲惨さを伝える証として、第一外科壕群・第二外科壕群を戦跡としては全国でも初めて文化財として指定しました。



2 御宿井 [宮城] **史跡**

琉球石灰岩でできた井戸で、羽衣伝説が言い伝えられ、琉球国由来記(りゅうきゅうこくゆらいき)(1713年)と球陽(きゅうやう)外巻の遺老説伝(いうせつてん)(1745年)に記されています。以前は生活用水として使用されていましたが、現在でも年中行事の際の拝所(うがんじゅ)として大事に守り継がれ住民の生活に密着しています。周辺からはグスク時代のフェンサ上層式土器や青磁、類須恵器が出土し、歴史的価値が高く評価される文化財です。



6 印部土手石 [兼城] **有形文化財**

印部土手石は、首里王府の時代から明治にかけて、田畑を測量する基準点として設定され、各間切に約300個あったといわれています。現在沖縄では100個余り発見されており、南風原町内からは松川原、川田原、け原(2点)の4個発見されています。首里王府時代の農業政策について知る手がかりになる貴重な文化遺産のひとつです。



7 修宮城橋碑 [宮城] **有形文化財**

与那原から首里・識名方向に向かう県道40号線、国場川上流にかかる宮城橋の近くに住っていた石碑。この道は現在でも与那原、佐敷、玉城などから首里に上る幹線道路になっており、かつて交通の要路として重要視された南風原を裏付ける貴重な文化財です。 ※南風原文化センター所蔵



8 字平橋碑 **有形文化財**

1690年に完成した字平橋は、琉球王朝時代に王府が建てた橋の石碑としては5番目に古いものです。沖縄戦で台座は破壊され、石碑本体表面には戦車のキャタピラの跡と思われる傷跡があるものの、奇跡的に割れずに残されました。完全な形状を有するものとしては最古の碑です。山川の部落内の道の中に埋まっていたが1987年に掘り起こされ現在は南風原文化センターに所蔵されており現地近くには石碑のレプリカが展示されています。



3 石獅子 変形髯

【兼城・本部・照屋A・照屋B】

石獅子はそれぞれの集落にとって恐れや災いをもたらす場所に向けられており、集落を災いから守るフーチゲージ(邪気返し・魔除け)のために作られました。町内には4基が残されており、本部、兼城にそれぞれ1基、照屋に2基現存しています。フーチゲージのほかに火事を引き越すと信じられてきた山への返しフーチゲージ(火返し)の役目も果たしています。



3-1 本部の石獅子



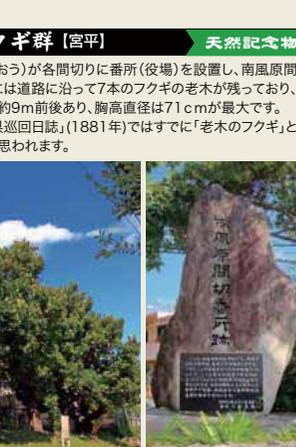
3-2 照屋の石獅子A



3-4 兼城の石獅子



3-3 照屋の石獅子B



3-3 照屋の石獅子B

9 南風原間切番所跡のフクギ群 [宮平] **天然記念物**

1611年頃、琉球王府の尚寧王(しょうねいおう)が各間切りに番所(役場)を設置し、南風原間切番所もその時に設置されました。現在番所跡には道路に沿って7本のフクギの老木が残っており、町内では珍しい存在です。このフクギ群は樹高が約9m前後あり、胸高直径は71cmが最大です。正確な樹齢は不明ですが、上杉県令の「沖縄県巡回日記」(1881年)ではすでに「老木のフクギ」と記述されていることから樹齢はかなり古いものと思われます。

県指定文化財

摩文仁家の墓 [大名]

摩文仁家は第二尚氏尚賢王の第二子尚弘毅(大里朝亮)を大宗とする家系で、その墓は南風原町の大名にあります。朝亮は尚貞王の時代に摂政を務め、その功績を認められ墓を拜領したとされています。丘の中腹を掘って墓は造られており、口は観音堂で、墓室内には6本の石柱がたち、住居のような珍しい造りです。南風原町唯一の県指定文化財です。

歴史的文化財

高倉 [津嘉山]

200年以上の歴史をもつ貯蔵庫。沖縄戦の激しい戦火もくぐりぬけてきました。現在も、屋根の支え木に砲弾跡が、戦前の屋根は茅葺だったそうです。上にはお米などの穀物が、下には、牛やヤギなどの家畜を飼育していたそうです。この歴史ある高倉、現在も管理する與座家の倉庫として使われています。歴史の語り部でありながら現役という貴重な存在です。

南風原町立

南風原町の昔・今・未来を感じる博物館。

南風原文化センター



南風原町立南風原文化センターは、「戦争と文化は両立しない」の基本理念のもと、「継承・交流・創造」を柱に、町の歴史や文化の調査・研究・公開を行う専門機関としての活動をしています。また企画展や音楽会・講演会など、県内外との文化交流や平和交流を通して、平和について考え、町の芸術・文化創造の拠点となっています。常設展示室には南風原が歩いてきた歴史を「沖縄戦」「戦後史」「移民」「暮らし」の4つのテーマで紹介しています。

沖縄戦のコーナーには、南風原陸軍病院を再現したジオラマや、壕から出土した遺留品が展示されており、沖縄戦当時の南風原の様子や人々がどのような体験をしたかを学ぶことができ、平和学習の場として活用されています。

企画展や各種事業も関係団体との連携を図りながら、地域の個性・独自性を県内・国内・海外へと広くアピールしています。

HAEBARU TOWN MUSEUM

In accordance with its basic philosophy that "war and culture are irreconcilable," the Haebaru Town Museum has followed its principles of "inheritance, exchange and creation" in playing an active part as an expert institution conducting surveys, researching the town's history and culture, and making its results available to the public. It also serves as a hub for the arts and cultural creation as well as for contemplating peace through scheduled exhibitions, music concerts, lectures and other activities for cultural and peace exchange both inside and outside Okinawa Prefecture.

The permanent exhibition room presents the historical path that Haebaru has taken across four themes: Battle of Okinawa, postwar history, immigration and livelihood.

In the corner focusing on the Battle of Okinawa, a diorama reproduces the Haebaru Army Hospital bunker. Personal effects, which were excavated from caves, are on display. Visitors are able to learn about the experience that people endured, and view scenes of Haebaru during the Battle of Okinawa. This corner utilized for peace studies.

While collaborating with relevant organizations on planned exhibitions and various other programs, the Haebaru Culture Center has made a broad appeal across Okinawa prefecture, Japan and other countries about the individuality and uniqueness of this community.

南風原町立 南風原文化センター

南風原町字喜屋武257番地

【開館】9:00~18:00

【休館】毎週水曜日・12月29日~1月3日

TEL:098-889-7399 FAX:098-889-0529



スマホで「南風原文化センター」の様子が見れます！

スマートフォン対応の「南風原観光アプリ」をお使いの機種に合わせて、QRコードからインストールし、「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることができます。

●詳しくは、巻頭の目次をご覧ください。



入館料	小学生	中学生	一般
南風原町の方は無料 ※20名以上は団体	個人 150円	200円	300円
	団体 100円	150円	250円

フロアー図



展示テーマ①「南風原の沖縄戦」

「南風原の沖縄戦」では、体験寝台、手術台、遺物、地形模型など、当時の様子をリアルに感じることができます。

沖縄陸軍病院で生き残った兵士や看護師の証言映像や、南風原陸軍病院で実際に使われていた医療品や日用品などの展示もあります。

また、奉安殿・忠魂碑の実物大模型や、学童疎開、移民と戦争についても紹介しています。南風原町だけではなく県内の資料も広く紹介し、沖縄戦全体の動きを理解できるようになっています。



展示テーマ②「戦後・ゼロからの再建」

戦後史は、政治や社会の動きだけでなく、庶民のたくましい暮らし、さらには映画・マンガ・オモチャなどの娯楽も紹介しています。

戦後生活の始まりの場であった収容所の展示から始まり、年表は県・町だけでなく字の出来事まで紹介し、写真や実物資料などを展示しています。

アメリカ統治時代「ゼロからスタート」した沖縄自らの手で勝ちとった、戦後の新しい歩みを知ってほしい貴重な展示コーナーとなっています。



展示テーマ③「移民」

ハワイ、北米、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ポリビアへの移民を紹介しています。

第一回ハワイ移民や第一回ブラジル移民、そして現在の各国の町人会の様子を展示しています。貧しい時代に、大志を抱いて遙かなる国に渡って行った南風原の先輩達と、その子孫である2世・3世とのつながりを感じさせます。



展示テーマ④「人々の暮らし」

戦前戦後、物の乏しい時代に生きた祖先達の暮らしの知恵や工夫の様子を紹介しています。

人が生まれてから成長し、亡くなるまでの儀礼を「人の一生」として紹介したコーナーや、当時の民家や庭をリアルに再現した空間から当時の暮らしぶりを伺い知る事ができます。

壁全面には、時間とともに変わる空や、かつての田舎の風景、また黄金森の豊かな自然も色彩豊かに表現されており、懐かしさと暖かみのある古き良き時代を偲ばせるコーナーとなっています。



【企画ホール】

企画ホールでは、文化創造の場として、ミニコンサートなどの音楽会や、文化センターの特別企画展、個展、講座等の催物を開催します。(最大で150人収容可能)



【図書室】

図書室ではありません。あくまでも図書室です。南風原や沖縄に関する、歴史文獻資料等をそろえています。



【ギャラリーざゆん】

南風原文化センターが収集した世界の織物や織機などを収蔵しています。個展などの小規模な展示会にも使用できます。

南風原と沖縄戦

Haebaru and the Battle of Okinawa



沖縄陸軍病院 南風原壕群20号イメージ
イラスト:喜島 隆

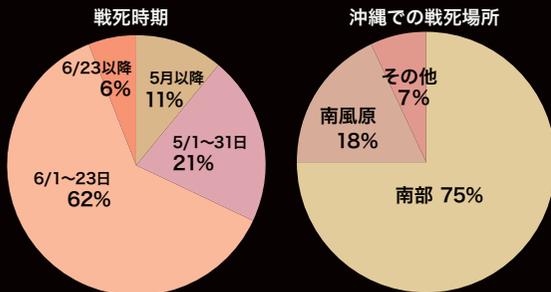
南風原村民の戦死状況

南風原村民の県内での戦死者は3505名(『戦世の南風原』より)です。戦死率は約44%で、およそ2人に1人は亡くなっています。中南部の市町村と比較すると戦死率は高い方になります。戦死者が一番多い所は砲弾の雨の中を避難した南部(摩文仁方面)が約75%、次に多いのが地元南風原村内の約18%です。

戦死時期は6月1日～23日が62%と最も高く、次に高いのが5月1日～31日の21%です。6月23日以後でも6%が戦死しています。

年齢別戦死率では60歳以上のお年寄りが最も高く、次に高いのは正規兵・防衛隊・義勇兵にとられた20～59歳の男子と続きます。10歳未満では年齢が低いほど戦死率が高くなっています。

こうした戦死地・戦死時期・戦死年齢の特徴は、住民を巻き込んだ地上戦闘の実態をあらわしています。



10月12日は「南風原町民平和の日」

過去の戦争で多くの町民の尊い命が失われたことや米軍占領下時代から現在までの歴史を教訓とし、二度と戦争を起こさないために日本国憲法と「南風原町非核地域に関する宣言決議」の理念の下に、全ての人々が等しく平和で豊かな生活が送れるまちづくりを進めることを目的に「10月12日」を「南風原町民平和の日」と定めました。

終戦後1946年1月23日、大見武取容所(現与那原町)に南風原村役所が設置され、その後同年10月12日、地元(現南風原小学校)に移り役所業務の開始となりました。

その時期は、本土疎開者や九州へ疎開した児童の引き揚げ、再会の喜び等、焼土とした沖繩・南風原の地で新しい時代を切り開いていく機運が高まっていました。そのことから戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを伝え発信するための日として「10月12日」を「南風原町民平和の日」としました。

戦場となった南風原

南風原は戦前から首里・那覇と島尻を結ぶ交通の要でした。そのため軍事的にも重要視され、前線に対する「後方陣地」として位置づけられました。

当初、津嘉山に配備されていた第32軍司令部は1944(昭和19)年の「十・十空襲」後、戦略の拠点を首里城地下へと主要な司令部機能を持ち、高津嘉山には第32軍司令部経理部として武器や食糧の補給部隊、輸送部隊、負傷兵の治療を行う病院部隊が配備されました。また、兼城にあった南風原国民学校に沖縄陸軍病院が転移してきました。

1945(昭和20)年1月29日、大本営が沖縄戦を本土決戦準備のための時間かせぎ作戦として位置付けた事により、第32軍には中南部を戦略持久作戦の重要地として戦車部隊・重砲部隊・高射砲部隊・機関銃部隊などの戦闘部隊も配備されました。

こうして日本軍が南風原に配備されるようになると、村民の生活は軍事色に染まり、壕掘りや食糧の提供、弾薬運搬、炊事などに協力させられました。学校や公民館、大きな民家は軍に利用され、さらに慰安所も設置される等、南風原は「要塞の村」と変貌しました。

5月下旬、米軍との激戦の末首里の第32軍司令部が陥落。牛島満司令官らは南部撤退へと追い込まれ、摩文仁の司令部へと移動。この南部撤退が南風原の運命を大きく左右したとも言え、南部への避難通過点となっていた南風原の一日橋・宇平(山川)橋、兼城十字路・照屋の十字路には、日本軍の前線部隊や避難する住民が殺到した為、米軍による大砲や艦砲射撃による集中砲火的となり多くの命が失われました。これらは戦後「死の十字路」「死の橋」と、たとえられました。

南風原村民の戦死者約68%が6月以降である事から交通の要であったことが、南風原の犠牲を大きなものにしたという事がわかります。

Haebaru Turned into a Battlefield

After the US military air strike on October 10, 1944, the 32nd Army Headquarters, which had been deployed at Tsukazan at the outset, moved its key command functions to set up its strategic base in the lower levels of Shuri Castle. The 32nd Army Headquarters Accounting Division, comprising supply units for weapons and food, transportation unit and hospital unit providing treatment for wounded soldiers, was deployed to Kotsukazan. Also, the Okinawa Army Hospital was moved to Haebaru National School, which was at Kanegusuku.

On January 29, 1945, the Imperial General Headquarters, which saw the battle of Okinawa as a stalling strategy in order to buy time to prepare for a decisive showdown on mainland Japan, deployed tank, firearms infantry, anti-aircraft, machine-gun and other strategic units to the 32nd Army in central-southern Okinawa, which were important regions for its strategic hold-out strategy.

The Japanese army's deployment to Haebaru in this way infused the lives of village residents with a military hue. They were forced to cooperate in digging trenches, providing food, transporting ammunition, cooking and other support activities. Haebaru was transformed into a "fortress village" as schools, community centers and large private houses were commandeered for military use and even a military brothel was set up.

At the end of May, the 32nd Army Headquarters at Shuri fell after a hard-fought battle. Commanding Officer Mitsuru Ushijima and other officers were forced to withdraw to the south. The Tsukazan Headquarters bunker was moved to Mabuni. It could be argued that this southern retreat significantly affected the fate of Haebaru. As Japanese army front-line units and evacuating residents converged on Ichinichi bridge, Uhei (Yamakawa) bridge, Kanegusuku intersection and Teruya intersection, which served as transit points for evacuation, the US military concentrated its artillery and naval bombardments on these targets, and many lives were lost. After the war, these places were spoken of as "intersections and bridges of death."

Approximately 60% of the Haebaru war deaths were in June or later months. So, the fact that Haebaru was pivotal for transportation increased the number of Haebaru casualties.



沖縄陸軍病院「南風原壕群20号」見学の様子。米軍による火炎放射器で焼かれた跡が生々しく残っています。

沖縄陸軍病院の概要

沖縄陸軍病院(球18803部隊)は1944(昭和19)年5月に熊本で第32軍の陸軍病院として編成され、6月から那覇市内で活動を始めましたが、同年10月10日に米軍の空襲で施設が焼失し、南風原国民学校校舎に移転しました。それ以降、第32軍野戦築城隊の指導のもとで、喜屋武(黄金森)と兼城(現在の役場北側の丘)に約30の横穴壕が造られます。

米軍の艦砲射撃が始まった1945(昭和20)年3月下旬には、陸軍病院は各壕へと移り、広池文吉病院長以下、軍医、看護婦、衛生兵ら約350人に加えて、3月24日には沖縄師範学校女子部・県立第一高等女子学校の生徒(ひめゆり学徒)222人が教師18人に引率され、看護補助員として動員されました。

4月1日の米軍上陸後、外傷患者の激増に対応する為、外科を第一外科、内科を第二外科、伝染科を第三外科へと改め、5月下旬には第32軍司令部は摩文仁(糸満市)への撤退が決定し、沖縄陸軍病院にも撤退命令が出されました。その際、重傷患者には青酸カリが配られ、自決の強要が行われました。

撤退後、治療活動は停止状態となり、将校以外の軍医や衛生兵は他の前線部隊に配置替えとなりました。

病院本部は山城、第一外科と第三外科は伊原、第二外科は糸洲の自然壕になります。山城の本部壕や伊原第一外科壕入口は爆撃され、糸洲第二外科壕や伊原第三外科壕は馬乗り攻撃にあつて、多数の死傷者を出し、6月18日、広池文吉病院院長が直撃弾を受けて戦死し、沖縄陸軍病院は解散することになりました。

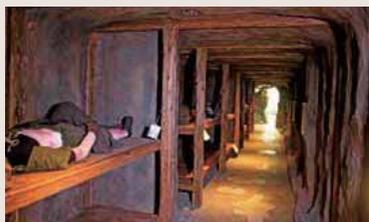
南風原町は1990(平成2)年、戦争の悲惨さを伝える証として、第一外科壕群・第二外科壕群を町の文化財(史跡)に指定しました。



撤退時に土の中に隠したと思われる医療薬品と顕微鏡が壕内に残っています。



現在の「飯あげの道」は平和学習のコースとしても整備され使われています。右の写真は「飯あげの道」に矢を再現したマネキン(南風原文化センター内展示)



南風原文化センターの展示室には当時の壕内の様子が再現されている。幅90cmの棚が2段あり、入院患者のベッドとして使われていた。



臭いも証言の一つとして、「壕内臭気」を公開(証言を元に当時の壕内の臭いを再現)。血やうみ、体臭や排泄物などが混じった強烈な臭いだったとされ、鼻を突く悪臭に吐き気をもよおす劣悪な環境だった事を追体験できます。(壕入り口受け付けで体験可能)

飯あげの道

「命懸けで食糧を運ぶ過酷な道」

沖縄陸軍病院壕への食糧(おにぎり)や水の運搬は看護補助員に動員されたひめゆり学徒隊の仕事でした。黄金森(こがねもり)を登り、さらには下って現在の南風原文化センターの西側横を通り、集落の中にある炊事場までの約800mの道のりを「飯上げの道」と呼び、梅雨時の雨でぬかるんだ泥道を大量の砲弾が降り注ぐ中、2人ひと組で醤油樽に詰めた食糧を担いで運搬する命がけの過酷な作業でした。

運搬中に砲弾の土埃が樽に入り、中のおにぎりに土が混じった為「土が混じってガリガリしている」「量が少ない」と患者から文句を言われたそうです。

この「飯あげの道」も戦争当時を追体験できる場所として、病院壕と共に平和学習に活用されています。

足手まといになる重傷兵は死を強要された

証言

青酸カリを混ぜたミルク

師範本科1年第二外科勤務 津波古 ヒサ 『ひめゆり平和祈念資料館 ガイドブック(展示証言)』

壕の奥にはランプが灯り、重傷患者がうめいています。「学生さん、水下さい」と弱々しい声で叫んでいるのです。ためらっていたら4、5人の衛生兵が入って来て、そこらの空缶を集め、木箱の上に並べ、練乳缶を開けて中に水を足しています。「お手伝いしましょうか」とかけ寄りました。そしたら凄く表情で私をにらんで、「まだいたのか。今頃そんな所にいたらたつ斬るぞ。敵はそこまで来ているんだ。何しているか」と怒鳴ったのです。私は壕入口に後ずさりしました。衛生兵は私たちに背を向け、ミルクを調査し、両手に4、5個ずつ持って壕の奥や横壕に入って行きました。壕内はシーンとしていましたが、しばらくすると急に興奮した叫び声が響いたのですよ。「これでも人間か。お前達のやることは」両足切断の患者がうめいているんです。衛生兵はその患者を引きずって奥の方へつれて行きました。ミルクには青酸カリが入っていると感じて騒いだのだと思います。

証言

異常な感覚が胃袋に走った

第一外科入院患者 岡 襄 『南風原町史第3巻 戦争編ダイジェスト版 南風原が語る沖縄戦』

青酸カリが配られたのは5月28日のことだ。衛生兵が来てミルクの配給があるから、入れ物を出せと言うので、私も飯盒のフタを出して置いた。壕の入り口の方からミルクが配られると、入り口の方で大きな声で騒いでいるのが聞こえた。喜んで騒いでいるのだと思った。そして、自分の所にもミルクがきた。ちょっとなめると非常に苦かったので、ナゲラ壕で看護婦さんがくれた黒砂糖を飯盒の縁で削ってミルクに混ぜた。「まだ苦いな」と、隣にいた北海道出身の兵隊と二人で話しながら、「もうこれくらいいいやろ」と一気に飲み干した。そして目がグワーッとちらついてきて、息苦しくて、胃の中が煮えくりかえる感じがした。「こりゃ毒や」と気づくと、水筒の水を飲み、指を突っ込んで吐いた。2~3回繰り返した。北海道の兵隊さんにも吐かせた。他の患者は一気飲みしたのか、始めは苦しんでいたようだが、もうシーンと静かになっていた。「殺される」と思った瞬間、不思議な事にそれまで動けなかった体で立っていた。走り出した途端、後ろから「コラー、誰だ、逃げるのは一っ」と怒鳴られ、ピストルの音が何発も聞こえた、壕は真っ暗なので当然逃げる事ができたが、北海道の兵隊は山川橋200~300メートル前まで行ったところで艦砲射撃に吹っ飛ばされてしまった。



津波古ヒサさんは「戦争の悲惨さ、愚かさ、そして命の尊さを後世に伝え残したい」という強い思いで証言活動を行ってきました。

(ひめゆり平和祈念資料館 第2展示室)



「南風原陸軍病院壕跡」碑

「重傷患者二千余名自決之地」と刻まれているが、2000余名は南風原壕群の收容人数であり、青酸カリによって殺害された人数は不明である。

南風原平和ガイドの会 ●第36回琉球新報活動賞 社会活動部門受賞(2014年)

2007(平成19)年6月18日の20号壕公開に伴って、4月に結成したのが南風原平和ガイドの会です。第1回養成講座の受講生を募集したところ、定員の3倍にあたる町内外の60名が応募するという、関心の高さが伺い知れました。これまで9回養成講座を開催し、現在では19歳から83歳の戦争体験者まで約60名が、陸軍病院壕を通して戦争の悲惨さや平和と命の尊さを伝えるという大きな使命を持って、壕のガイドを担っています。

2009(平成21)年9月から2013(平成25)年まではNPO法人として町から依頼業務を受けて、町内各字の歴史や文化、見どころをまとめたマップや黄金森周辺の戦跡マップ等を作成し、町の観光事業にも大きな役割を果たしています。



各字ごとにガイドマップも作成し「南風原文化センター」や隣接する「はえはる観光案内所」で入手できます。

沖縄陸軍病院南風原壕群20号見学希望の方へ

- 個人および団体とも予約制
- 見学は有料(要確認)
- 一度に入人数は10名以内
- ヘルメット&懐中電灯(現場無料貸出)
- 常駐ガイドによる案内
- 見学時間約20分程度

問い合わせ・予約
南風原平和ガイドの会
(南風原町立南風原文化センター内)
TEL: 098(889)7399

動画
5
こちらの
写真も
ご覧ください

**スマホで「平和ガイド」の様子が
見れます!**

スマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をお使いの機種に合わせて、QRコードからインストールし、「はえはるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることが出来ます。

●詳しくは、巻頭の目次をご覧ください。

[iPhoneの場合]

[Androidの場合]



[iPhoneの場合] [Androidの場合]



南風原町の戦跡

Battle Sites in Haeburu Town

今なお残る戦争の傷跡

南風原には、映画「ひめゆりの塔」の舞台となった陸軍病院壕をはじめ、沖縄戦の証である戦跡や慰霊碑が各字に点在しています。

悲慘な戦争の「記憶の継承」と、「恒久平和」への願いを込め、南風原町では戦跡を「平和学習」の場として活用しています。

Scars of War Still Remain

Along with the Army Hospital Bunker which served as the site for filming "Himeyuri-no-To (Tower of the Lilies)," Haeburu Town is interspersed with battle sites and memorial monuments that serve as witness to the Battle of Okinawa.

Haeburu Town actively uses these battle sites as places for "peace studies" to pass on the memories of what happened during that terrible war and pray for "eternal peace."



沖縄陸軍病院 南風原壕群

南風原町には黄金森(こがねもり)とよばれる小高い森があります。日本軍は沖縄戦に備え、黄金森に沖縄陸軍病院壕群を構築しました。院長以下、軍医・看護婦・衛生兵・ひめゆり学徒らがここで傷病兵の治療に当たりました。

南風原町は沖縄戦の記憶を伝えるために、1990年に沖縄陸軍病院南風原壕群を文化財に指定し、陸軍病院壕20号を一般公開しています。日本全国で初めて第二次世界大戦の戦争遺跡を文化財に指定しました。



悲風の丘(黄金森)



大東亜戦争戦没者の慰霊塔(兼塔)



弾痕(山川の堀)※現在は南風原文化センター常設展示

南風原町の戦争関連資料

●各々が語る沖縄戦／南風原町は、1983(昭和58)年から1996(平成8)年まで、13年がかりで全12カ字の戦災調査を行いました。

*書籍に関するお問い合わせは、南風原文化センター 098-889-7399まで。

<p>戦士の南風原 ■A4版 412頁</p>	<p>南風原が語る沖縄戦 ■A4版 104頁 ■B5版 1,000頁</p>	<p>南風原の学童疎開 ■B5版 90頁 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>南風原陸軍病院 ■B5版 70頁 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>神里が語る沖縄戦 ■B5版 94頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 694人 ●戦死者 295人</p>	<p>山川が語る沖縄戦 ■B5版 78頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 645人 ●戦死者 252人</p>	<p>津嘉山が語る沖縄戦 ■B5版 114頁 ■500円 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>照屋が語る沖縄戦 ■B5版 88頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 1,949人 ●戦死者 808人</p>	<p>喜屋武が語る沖縄戦 ■B5版 84頁 ■500円 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>本部が語る沖縄戦 ■B5版 74頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 455人 ●戦死者 226人</p>	<p>兼城が語る沖縄戦 ■B5版 94頁 ■500円 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>宮平が語る沖縄戦 ■B5版 98頁 ■500円 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>新川が語る沖縄戦 ■B5版 80頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 513人 ●戦死者 218人</p>	<p>大名が語る沖縄戦 ■B5版 88頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 268人 ●戦死者 124人</p>	<p>宮城が語る沖縄戦 ■B5版 80頁 ■500円 ■在庫なし(閲覧可)</p>	<p>与那覇が語る沖縄戦 ■B5版 76頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 735人 ●戦死者 311人</p>	<p>与那覇が語る沖縄戦 ■B5版 76頁 ■500円 (Data) ●当時の人口 268人 ●戦死者 124人</p>
-----------------------------	--	---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	--	--



第32軍司令部 津嘉山壕群

第32軍が津嘉山に構築した総延長約2,000mの人工の司令部壕。およそ3千人の兵士らが配属され、16人のひめゆり学徒も動員されていました。

1944(昭和19)年夏頃、陸地構築専門の野戦構築部が中心となり、南部の住民を徴用して構築。同年の米軍による「十・十空襲」後、第32軍は新たに首里城地下に司令部壕を構築して、作戦の指揮の中樞は首里へと移されたため、津嘉山壕群には、経理部・兵器部・法務部・軍医部の一部が配備されました。



ナゲーラ壕【第62師団(石部隊)野戦病院壕】

新川に構築された全長約200~300mほどの人工の野戦病院壕として手術室・薬品室・商務室・看護婦や将校の控室・患者室が設置され、看護のために首里高等女学校のずいせん学徒と、沖縄昭和高等女学校のていご学徒が動員されました。

現在、壕は沖縄自動車道那覇インターチェンジ料金所周辺に一部残っています。

「慰霊祈和の塔」と「町民平和の礎刻銘板」

「慰霊祈和の塔」は戦死した兵士や住民をまつる忠魂碑として1966に建立。

2010年に沖縄戦を含む15年戦争で犠牲になった南風原村(当時)出身者4,481人を刻銘する「南風原町平和の礎」の建立に伴い「慰霊祈和の塔」も改修されました。礎には犠牲となった南風原町民を各字ごとに刻印しています。



イーチキの御獄(現津嘉山小学校体育館隣)

戦前、天皇が教育の基本精神を示す教育勅語が国民に求められました。琉球古来より神聖な信仰の場としての御獄にも鳥居が設置され御獄は神社化されました。戦時中は戦勝祈願や出征兵の壮行会を行う場となり、国家神道の浸透に利用されました。



弾痕(津嘉山の堀)

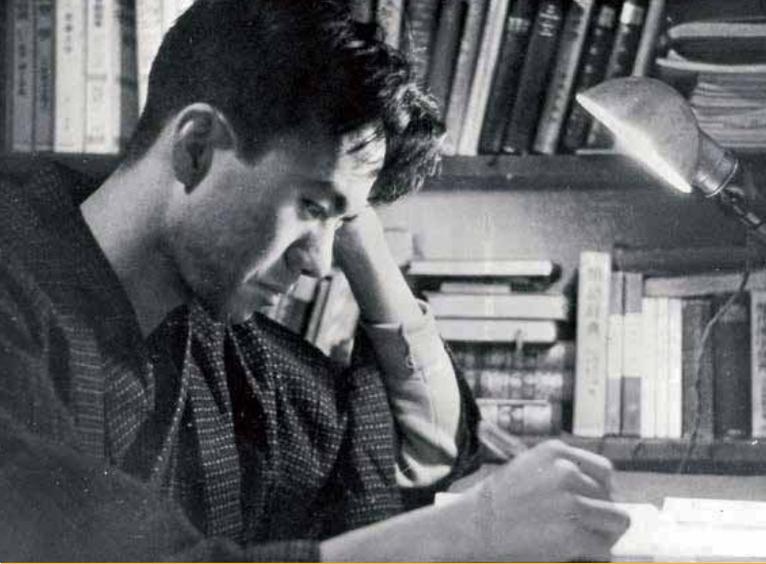
物量作戦で挑んできた連合軍は、鉄砲弾を「雨」のように降らせました。その弾痕は、津嘉山の民家の堀や山川の水タンの壁(現在は南風原文化センターで常設展示中)に、その痕跡が生々しく残っており、砲弾の威力を見せつけています。

南風原に配備された主な部隊

1944(昭和19)年夏以降に配備された部隊



沖縄陸軍病院南風原壕



南風原人物列伝

世界で初めて空を飛んだ人、ウルトラマンの生みの親のひとり、海外で活躍したした人たち。南風原には誇りにする人がいっぱいいます。

ブラジル日系人初の歯科医として活躍

金城 山戸

1893(明治26)年、南風原町津嘉山生まれ。1908年、当時まだ14歳の彼は第1回ブラジル移民として速くブラジルの地へ渡りました。一緒に移民した2歳年下の儀保蒲太とは無二の親友でした。山戸は歯科医の奉公人として働き、その後勉学を重ね、日本人移民の中から初の歯科医師となり、現地ブラジルで活躍しました。彼は日系人社会だけでなく、現地の住民らの歯科医療にも貢献し、たくさんの人々から敬愛される人格者でした。惜しくもブラジル移民80周年の前日、1988年6月17日に95歳でその生涯を閉じましたが、その功績は今もなお現地で語り継がれています。



“夢を賭けた”第1回ブラジル移民、イッパチ

儀保 蒲太

1895(明治28)年、南風原村津嘉山に生まれたイッパチは、日系人で最初の歯科医師になった津嘉山出身の友人、金城山戸とともに、1908年、第1回移民としてブラジルへ移住しました。イッパチというニックネームは、この移民船・笠戸丸の中でつけられたようです。山戸とイッパチは幼なじみで、山戸は医師へ、イッパチは賭博の道へ入りました。花形賭博師として活躍したイッパチは、稼いだお金を困窮している沖縄県人に分け与えました。また日系人社会の福祉関係で篤志家としても知られています。



金城哲夫資料館(南風原町津嘉山:松風苑内)

ウルトラマンシリーズの脚本を手掛けた沖縄を代表する脚本家・演出家のひとり

金城 哲夫

1938(昭和13年)に津嘉山で生まれ、特撮で知られる円谷プロでウルトラマンシリーズの企画立案、メインライターとして脚本を手掛けました。沖縄方言や沖縄をイメージさせる怪獣や題材を取り入れ、チブル星人(方言で頭)、ジラース(次郎父さんをもじったもの)という怪獣は有名です。それ以前は映画「吉屋チル」物語、製作や、沖縄に帰郷後は沖縄国際海洋博覧会の演出を手掛けましたが、昭和51年、37歳の若さで死去しました。



ブラジルで築き上げた大企業 PANCOの社長

与那嶺 清照

1927(昭和2年)、宮城生まれ。9歳の清照少年は家族6人で日本を離れ、南米のブラジルの大地を踏み始めました。バナナ作りや野菜作り、カステラ製造会社、パン屋などの仕事をこなし家族で支え合っていました。16歳の時に父親を23歳の時に母親を亡くしてからはパン工場で働く傍ら、夜空いた釜を借りて独自のカステラを販売して生計を立て、やがて独立しました。常に創意工夫を重ね、インスタントラーメンやビスケットなどの商品も増やし、パン工場の敷地内に製品をパッケージするプラスチック工場や、機械修理場、金属加工工場などを兼ね備え、独自の勢力を伸ばしていきました。今では約7,000人の社員、ブラジル各地に9つの大規模な工場を持つブラジルのパン屋「PANCO(パンコ)」として一大企業を設立しました。



ライト兄弟より先に飛んだ男 飛び安里

18世紀後半、鳥のように空を飛ばたい人、それが南風原町津嘉山に住んでいた「飛び安里」です。津嘉山の仕立森(したてむい/現在の津嘉山小学校)から津嘉山公民館までの150m~200m近くを飛んだとされています。「鳥のように飛んでみたい」という人類の夢を実現させ、世界初の動力飛行で知られるライト兄弟よりも何と100年以上も前の快挙として語り継がれ、高津嘉山(たかつかざん)には初飛翔顕彰碑も建てられています。

どんな飛行機?

鳥のように翼を飛ばたかせながら飛ぶ「羽ばたき式飛行機」と呼ばれるもので、弓の弾力を活かし、鳥の翼を模した羽を付け、足を上下させて羽を動かしました。初飛行の時には予想以上に高度が上がってしまったため、命綱を託されていた妻が慌てて引っ張ったため、バランスを失って自宅の台所付近に落ちてしまったという逸話もあります。

「飛び安里」の人物像

人物については諸説あり、安里周富(あさとしゅうふ/1748~1799年)、安里周富(あさとしゅうふう/1765~1823年)、安里周祥(あさとしゅうしょう/1797~1867年)の3人が挙げられていますが、最も有力なのは周富です。琉球王朝のお抱え花火師だったとされていますが、その人物や設計図等の資料はわずかで、しかし、長年にわたりその偉業は伝承されており、資料集も南風原文化センターで販売されています。



飛び安里初飛翔記念碑(高津嘉山)



翼の1/2スケールレプリカ(南風原町役場)



市民劇「飛べ!琉球鳥人」(劇団O.Z.E)

南風原町では平成27年「金城哲夫生誕75周年記念事業」南風原町ヒーロー脚本賞として「飛び安里」の脚本を公募しました。受賞作品は今後、町内の小・中・高校の演劇や市民劇等に活用し上演を予定しています。

(写真提供:オリジンコーポレーション 劇団O.Z.E)

アルゼンチンで洗濯屋、コルドバ日本人学校の建設

大城 守吉

1895(明治25)年、兼城生まれ。ペルー移民から転じてアルゼンチンのコルドバ市で、洗濯店を経営しました。懇切丁寧な仕事は信頼を集め、仕事を軌道に乗せました。その後妻を呼び寄せ、もらい子の守徳を実子として育て、社会事業や慈善事業への多大な協力を惜しまない人格者でもありました。ところが、昭和12年に日本人学校の建設準備で帰国し、沖縄から香港経由でアルゼンチンへの帰途の際、停泊していた船にわたる小型船のボイラーが爆発して爆死しました。45歳の若さでした。



仲間渠 筑登之 手習所教育の先駆け

1833(天保3)年生まれ、善細大屋の孫とされる仲間渠筑登之が首里の大美御殿の奉公先で儒学算筆を習い、帰郷後仕事傍ら、明治元年手習所を開き村の子弟に勉学の機会を与えました。明治31年に南風原村に小学校が創立されましたが、それ以前に教育が施されていたこととなります。今日でも宮平が教育部長と言われ、教育熱が盛んであるゆえんとして知られています。明治15年上杉県令の学事視察の際にも宮平の手習所の取り組みを賞賛され、教育の先駆けの地として、昭和53年に宮平公民館の敷地内に「手習所之跡」の碑が建立されました。



「手習所之跡」の碑(宮平公民館敷地内)

糸満 親雲上 国頭の手賊を討伐する

1640(尚豊王19)年大干ばつがあり、宜野湾・北谷方面に田園が枯れ五穀も実らず、餓死者まで出るほどの被害がでました。その時、糸満親雲上は耕作奉行となって宜野湾から北谷の枯渇した水田に水を引く、地元の人々を安心させ、天災を防いだ人物として知られています。また、国頭で潜む手賊が道行人の衣服を脱ぎ取ったり、人家の財物や牛馬を盗んだり住民を不安に陥れていたところ、琉球王府に命じられて盗賊を彼の策略でみごとに討伐した賢人としても知られています。その子孫は、宮平から喜屋武にかけて多い赤嶺姓(山口門中)です。

いとまん ベーちん

南風原の民話

南風原には遙か遠い昔から伝わる先祖の教えや民話が数多く残っています。

絵：新垣 正宏

Haebaru Folktales

Haebaru preserves the lessons and folktales passed on to us long ago from our ancestors

羽衣伝説【宮城(みやぐすく)】

今から300年以上も昔のこと、宮城に大国子(でーこくしー)という人が住んでいました。ある日、野良仕事の帰り、どこからともなくいい匂いが漂ってきました。不思議に思いあたりを見回すと、御宿井(うすくがー)で美しい女の人が長い髪を洗っていました。あまりにも美しいのでしばらくみとれていましたが、やがて木の枝にかかっているきれいな衣に気づきました。大国子はこっそり近づきその衣を盗み、大急ぎで家へ持ち帰り、高倉に隠してしまいました。

大国子が御宿井へ戻ると、女はしくしく泣いています。声をかけると「髪を洗っている間に着物がなくなってしまったのです。これでは家に帰れません」と泣きながら言いました。大国子が「それでは着物が見つかるまで私の着物を着ていなさい。私の家はすぐ近くだからそこで休んでいなさい」と誘いました。

その後、二人は仲良く暮らし、やがて子供も生まれました。ある日、女は子供たちが歌っている子守唄を聞いて、羽衣が隠してある場所を知ります。羽衣を見つけて羽織ると、ふわっと空に舞上がり、どんどん天高く遠ざかって行きました。それを見た子供たちや村人たちは「くまどおー！くまどおー！」(ここだよ、ここだよ)と叫びながら追いかけてきましたが、女の姿は与那原の久場塘(くばどう)で消えてしまったそうです。御宿井には、今でも女のジューファー(かんざし)が落ちていると伝えられています。



御宿井(ウスクガー)

琉球石灰岩でできた井戸で、羽衣伝説が言い伝えられ、以前は生活用水として使用されていました。現在では年中行事の際の拝所(うがんじゅ)として大事に守り継がれ住民の生活に密着しています。

Legend of the Kimono of Feathers【Miyagusuku】

Over 300 years ago there lived a man named Dekokushi in Miyagusuku. One day, on his way home from working in the fields, he found a wonderful scent drifting through the air from out of nowhere. He looked around in wonder and saw a beautiful woman washing her long hair at Usukuga well. She was so beautiful that he found himself fascinated by her beauty. After some time, he noticed her beautiful kimono draped over the branch of a tree. Dekokushi quietly crept up and stole the robe. He hurriedly brought it back to his home and hid it in the storehouse.

When Dekokushi returned to the well, the woman was sobbing. He asked her what was wrong and she cried, "While I was washing my hair, my kimono has gone missing. Now, I cannot return home." Dekokushi invited her, saying, "You can wear my clothes until your kimono is found. My home is close by, you can rest there."

From that day on, the two lived happily and, eventually, had children. One day, the woman heard a nursery rhyme that some children were singing and learned where her kimono had been hidden. She found her kimono and put it on, then softly drifted up into the sky going higher and higher into the heavens. The children and people of the village saw this and chased after her yelling, "There, she goes! There, she goes!" The woman is said to have disappeared around Kubadou in Yonabaru. Even today, people tell of an ornamental hairpin which the woman dropped at Usukuga well.

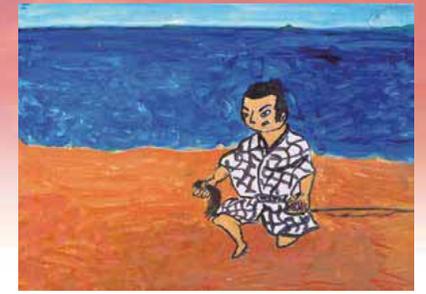
ウサンシー伝説【与那覇(よなは)】

ウサンシー(穂作根子)は気品の高い若者でした。ある日、与那久浜(よなくはま)でかもじ(女性の髪に添えつける髪)を拾い、持ち主を捜していました。現れた持ち主はとても美しいお姫様でした。姫は喜んでウサンシーを善人だとほめ竜宮へ招きます。竜宮では時の立つのも忘れるほど厚いもてなしを受けました。

3ヶ月が過ぎた頃ウサンシーは帰ろうと思いを立ちました。竜宮の神は「すでに三十三代という時間が経っている、ここで楽しんだらよかろう」と止めましたが、彼は故郷が忘れがたく帰る事になりました。姫は名残を惜しんで「この紙包みを私と思い持ち帰ってどんな事があっても開けないでください」と手渡しました。

故郷に帰ったウサンシーを知る者はやはりいません。一人寂しく村の前の丘に登って行きました。そして姫からももらった紙包みを開けると中には白髪が入っていました。それがウサンシーの体につくとウサンシーは急に老化し死んでしまいました。ウサンシーはその場所に葬られ、その場所はウサン嶽(だき)と名付けられました。

この話は浦島太郎伝説に似た伝説として知られています。



Legend of Urashima【Yonaha】

The legend of Urashima, which is rare in Okinawa, is still preserved in Yonaha.

Usanshi was a dignified and refined young man. One day, at Yonakubama beach, he picked up a hairpiece and sought to return it to its rightful owner, who, it turned out, was a very beautiful princess. The princess was very happy and praised Usanshi as a virtuous person and invited him to the Dragon Palace. At the palace, Usanshi received such a lavish welcome that he lost track of time.

Around three months later, it occurred to Usanshi that he wanted to return home. The god of the Dragon Palace stopped him, saying, "Thirty-three generations have already passed. Why not stay here and have fun?" However, he had never forgotten his home and decided to go back. The Princess reluctantly bid him farewell and handed him a package, "Please take this package home as a souvenir of me, but be sure that you never open it, no matter what."

When Usanshi returned home, there was no one he knew and no one who knew him. Alone and sad, he climbed a hill in front of the village. On the hill, he opened the package he had received from the Princess. Inside was a lock of white hair. When the hair touched his body, Usanshi suddenly grew old and died. He was buried at that same place, which came to be called Usandaki.

ウサン嶽

「穂作根子(ウサンシー)の墓」と刻まれた墓標と香炉が納められた祠。海に面しない南風原に なぜか浦島太郎伝説と似た伝説があるのは興味深い。



あらかち まさひろ (与那覇出身) 新垣 正宏さん

読み上げは標準語版と子ども達に沖縄方言を守り伝える事も意識してウチナーグチ版も用意している。

子どもの頃、近所に「紙芝居」屋さんがあると胸をワクワクさせて見ていたという新垣さん。あの光景が忘れられず、自分でも紙芝居を作ってみようと思え立ち、南風原の歴史や民話を調べ絵も独学で学びながら紙芝居を作ったといえます。

「民話の中には町や村の成り立ちや人々の暮らし、山・川・海等の地理的な情報からその土地の歴史的背景が見えてくるんです」と話す新垣さん。今では学校や自治会からの公演依頼が増え、何よりも驚くのは「子どもと一緒に大人も目をキラキラさせて紙芝居を見てくれます。そう！私が生かす子どもの頃見た光景が昔と変わらず残っているんです」とうれしそうなお表情で話してくれました。

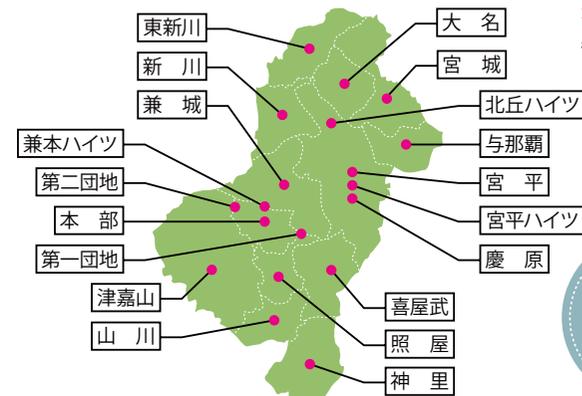
南風原新伝説

飛勇人(ヒュート)

2013年に「第一回はえるんフェスティバル」でデビューした南風原町の新しいヒーローたちです。6体それぞれが、南風原町の偉人や民話をもとにしたキャラクターです。町内のイベントでヒーローショーを演じたり、小学校を訪れて「うちなーぐち教室」を開くなど、子供たちを元気づけ沖縄の文化を伝えるため活躍しています。



■ヒュートに関するお問い合わせ 南風原文化センター ☎098-889-7399



南風原町
全体図

スマホで「南風原町の風景」が見れます！

スマートフォン対応の「南風原町観光アプリ」をお使いの機種に合わせて、QRコードからインストールし、「はえるん」がある写真をスマートフォンで読み取ると「案内動画」を見ることが出来ます。

●詳しくは、巻頭の目次をご覧ください。

南風原町 19 の自治会

ひがしあらかわ 東新川



まちづくり環境美化活動
地域が主体となって「まちづくり」をすすめることに重点を置き、年4回の清掃活動では子供から大人までが参加し、草刈りやゴミ拾いなどを行っています。その活動のおかげで不法投棄が多かった地域もきれいになりました。
平成27年12月4日、東新川災害時避難施設が竣工しました。自治会が維持管理を行う施設としては、町内で初めての施設となっており、防災コミュニティ活動の拠点として活用し、まちづくりを進めていきます。

かねもと 兼本ハイツ



住民主体の地域活動と豊かな住みよい環境
兼本ハイツは、沖縄県住宅供給公社が、本部・兼城の丘を一つの分譲団地として開発し、昭和51年から入居が始まり世帯数198戸、人口1640人の南風原分譲団地が誕生しました。平成8年4月1日、団地名が兼本ハイツに改称され現在に至っています。兼本ハイツでは、平成5年に系数第一氏が三線愛好会を結成し、以来、自治会主催の新年会、納涼夏祭り、敬老会や南風原町主催の総会や敬老会などにも積極的に出演して会場を盛り上げて地域の活性化にも貢献しています。また、女性部すずらん会、器徳大正琴サークル、青ノ会女性部も自治会活動や福祉活動にも積極的に取り組んで「明るく住みよい地域づくりに貢献しています。

だいに だんち 第二団地



子ども達の「夢」を育む地域活動
第二団地自治会では、毎年、子供の日が近づくと、子どもたちの健やかな成長を願い、さわやか会の「手作りこのほり」が挙げられます。掲揚式では地域住民がそれぞれ協力し、色鮮やかな風景が見られます。また、毎週1回、集会所で開かれる「子育てサロン」では、お母さんとお子さんの交流の場として利用され、民生委員による子育て相談や参加者同士での懇談もあり、広いスペースでは、のびのびと子供達も思いのままに楽しく過ごしています。

あらかわ(アラカー) 新川



30年目を向かえる「駅伝大会」
国頭村の奥から新川までの約130kmをつなぐ「駅伝大会」は住民の多くが参加し、30年も続いている一大イベントです。自治会が管理するコミュニティセンターでは、青年エイサーなどの祭りやサークル活動の場として利用され地域活性化に役立っています。
また、新川には全国でも数少ない、高度多機能な県立南部医療センター・こども医療センターや沖縄県の貴重な公文書を所蔵する沖縄県公文書館があります。

かねぐすく(カニグスク) 兼城



独自の伝統を今に伝える
町内で唯一、グスク跡(内瀨城)がある兼城は、区を挙げて祭事を執り行っており、その中でも「兼城の綱引き」は守り神とされる龍蛇(ジャー)が火を噴き、区民の調和を示す(クントゥール)など特徴あるものがあります。他に、新年会(もちつき大会)、納涼夏祭り、敬老会、慰霊祭があり、これらには伝統芸能である舞方棒、揚作田、下口説が演じられています。また、南風原町体育大会では5連覇を達成するなど、スポーツ活動も盛んで、青年からシニアまで、現役で活躍するアスリートが勢揃いしています。

もと(ムトウ) 本部



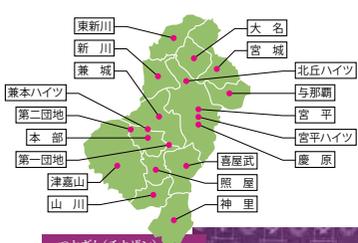
「琉球かすりの里」としての誇りあるまち
南風原町の「かすりの産地」のひとつである本部区には縦の文様でデザインされた通りや道案内が多くあり、散策路としても楽しめます。また、区約1.8kmのカナの花で緑化運動に取り組む「本部カナの会」はその功績が認められ、琉球新聞活動賞(平成26年度)を受賞しています。伝統芸能では男女の求愛を鏝と花を模した踊り手が表現する「ハーペルムービー」が平成26年に64年ぶりに復活し、地域の伝統継承にも力を入れています。また、本部区は公民館と児童館が同じ場所にあることから、世代間を越えた交流にも積極的に取り組んでいます。

だいいち だんち 第一団地



20年以上もつづく「旗頭」のガーエー
毎年の夏、団地の集会所前の通りを「歩行者天国」として解放し、週末には盆踊りやいくつもの旗頭が挙がる綱曳きがおこなわれており、綱曳きの前には、対立する相手方に威嚇をぶつけ合う「旗頭のガーエー」で盛り上がります。
また、入学シーズンには、小学一年生のいる家庭を対象に「新年生激助会」も開かれており、新しく入居した住民なども気兼ねなく地域活動へ参加できるような地域住民が手を取り合っておりサポートしています。

※人口・世帯数は平成28年2月現在のものです。



つかざん(チカザン)

津嘉山



26年ぶりに復活した組踊り八重連(エーゾ)

- 人口: 9,312人
- 世帯数: 3,425戸

津嘉山の「綱曳き」

「温故知新」が礎にある活気あるエリア

津嘉山区を代表する「綱曳き」は南山王が伝えたとあり、地域の誇りとして受け継がれ、「御願綱」として毎年旧暦6月26日に「アミシの御願」に行われますが、大綱曳きの場合は稲の収穫儀礼である六月ウマナー(旧暦6月15日)後の月明かりのある頃が選ばれ、15〜18日頃の2日間におわたって勇壮な大綱曳きが展開されます。また、周辺環境はハイパスの開通もあってアクセスの利便さもあり、商業店舗や住居地域もひろがり、住みやすいまちとして注目されています。

みやくすく(ナグスク)

宮城



伝統舞踊「忍び」

- 人口: 1,004人
- 世帯数: 352戸

旧暦6月に行われる「綱曳き」

「伝統芸能と綱曳き」がいきづくまち

宮城区で大切に伝承されてきた、組踊り「国吉ぬむや〜」の「忍び」の場を舞踊として独立させ演じられている伝統芸能のほか、綱曳きも盛んで旧暦6月15日のウマナー綱と旧暦6月26日のウフジナ(大綱)の2つが行われます。特に「綱曳き」は区民の誇りでもあり、地域のシンボリックな行事として戦前から戦後を通して貫いて行われており、区長を中心に若者業(ワカムンジュー)のカシラ(頭)とヒザグラー(小頭)が運営にあたっています。

きた おか

北丘ハイツ



敬老会

- 人口: 341人
- 世帯数: 130戸

納涼祭

区民が率先してすすめる美しいまちづくり

北丘ハイツでは、「結の会」を中心に、区の集会所や地域周辺の美化活動を続け、南風原町の「第30回美化コンクール」で最優秀に輝くなど、明るいまちづくりを楽しみながら取り組んでいます。また、地域住民が協力し合いながら「納涼祭」や「敬老会」、「餅つき大会」なども活発に行われ、これら活動のようすを伝える広報誌「北丘の風」は20年以上続いている、区民の皆さんにも好評です。

やま がわ(ヤマガワ)

山川



農業祭・敬老会

- 人口: 1,069人
- 世帯数: 378戸

はえはる美瓜(ビュウリー)

農業人魂が築くふるさと

昔から南風原では、野菜作りとスポーツ競技といえば、「山川」の名が上がります。その野菜作りでは近代的な大型ハウスを導入し、ゴーヤー等の野菜が周年栽培され県内及び本土へ出荷されています。最近では、へちまの生産日本一の南風原において「はえはる美瓜」の生産にも力をいれており、「おきなわ花と食のフェスティバル」では農業用水の安定供給と活気あるユイメールのふるさとづくりが評価され「沖繩ふるさと百選」にも認定されました。また、スポーツに対する関心が高く、町内のスポーツ大会では常に上位の成績を納め、平成21年度には32年ぶりに総合優勝に輝きました。

おお なく(オオナク)

大名



ヒージャーガー

- 人口: 989人
- 世帯数: 377戸

厚文仁家の墓

琉球王国時代の佇まいが今も残る

大名区には第二尚氏王統第十代尚賢王(しょうじつおう)の次男・尚弘毅(しょうこうぎ/1647年〜1687年)を始祖とする厚文仁家の墓があります。これは11年間、摂政を務めた功績により国王から贈られた墓で、築造年代は不明です。観音開きの入り口や墓内の石柱、漆喰で仕上げた天井、琉球石灰岩を切石で積んだ壁など、住居風の造りが特徴で、1970年7月14日、町内唯一の県指定文化財に指定されました。

よ、な は(ヨナハ)

与那覇



大綱曳き

- 人口: 2,439人
- 世帯数: 907戸

ウサン嶽

沖繩でも珍しい「浦島伝説」の残る村

与那覇には、ウサンシーという若者が主人公の「浦島伝説」が残っています。浦島伝説のように竜宮の宴の後、ウサンシーは村に戻りますが時が経っており、彼を知る者もなく、一人寂しく御山嶽に登って行きました。そして土産の紙包みを開けた途端、中にある白髪が降りかかり、白髪のお老人となって、そのまま崩れるように死んでしまいました。その後、この場所はウサン嶽と呼ばれ、地域の信仰を集める拝所となっています。また、毎年大綱曳きの時には「ウサンシー歌舞劇」を披露し、昔と今をつなぐ文化活動にも積極的に取り組んでいます。

みやひら(ミヤヒラ)

宮平



笠踊り

- 人口: 7,156人
- 世帯数: 2,539戸

宮平獅子舞「マイイ手(まーいでーい)」

教育に根ざした人物の輩出。伝統芸能の継承。

南風原にまだ学校がなかった頃、宮平出身の仲村興筑親雲上(なかなだかりちくべーちん)が明治元年に開いた学校の始まりを記念し、宮平公民館の敷地内に「手習所之跡」の碑が建立されています。そのことから宮平には今も教育関係者が多くいます。また、約300年前に伝わった「宮平獅子舞」で、一時途絶え、およそ60年ぶりに復活した舞型の披露に加え、紅型衣装を身に包み、踊りの所作が他地域とは異なり優雅に舞う笠踊りの戦後初の披露など、伝統継承にも積極的に取り組んでいます。

け ぼる

慶原



慶原の風景

- 人口: 52人
- 世帯数: 19戸

高架下の「パークゴルフ場」

高架橋下のスペースを有効利用

慶原区は沖縄陸軍病院南風原壕跡のある黄金森から東にある緑豊かな地域で、総人口150人余の小さな自治会です。最近では那覇空港自動車道に近いことから利便性も高くなっており、その高架橋下にはパークゴルフ場などもあり、区民の憩いの場として利用されています。また、集会所には、区民や地域の小中学校、図書館から寄贈された書籍をそろえた、「文庫コーナー」があり、子どもたちに広く利用されています。

てる や(テラヤ)

照屋



綱曳き

- 人口: 1,539人
- 世帯数: 534戸

舞方棒

独特の「型」に裏打ちされた勇壮な伝統芸能

照屋区には脈々と受け継がれる伝統芸能「舞方棒(メーカタボウ)」と呼ばれるものがあり、「北谷の手」、「アブシの手」の2つの型があります。アブシの手は年中行事や慶事に執り行われることが多く、区民の誇りとなっています。他に20数年ぶりに復活した「綱曳き」は住民総出で綱づくりに取り組み、旧暦の6月25日と26日に本番を迎えます。また、地域には有形民俗文化財にも登録された、「照屋の石獅子」もあります。

みやひら

宮平ハイツ



琉球舞踊

- 人口: 402人
- 世帯数: 115戸

夏祭り

南風原で一番あたらしいまち

平成28年で16周年目を迎える宮平ハイツは南風原町で19番目の行政区として新しいまちづくりに取り組んでいます。毎年、夏休みには、「夏祭り」が開催され、子どもから大人まで楽しめるプログラムや屋台を企画し、区民全員が楽しめるアットホームなイベントを開催しています。平成27年には約30年ぶりに復活した伝統舞踊も披露し、大いに盛り上げられました。

きゃん(チャン)

喜屋武



ちゃんめソーミン

- 人口: 1,223人
- 世帯数: 451戸

喜屋武の綱曳き

伝統食「ちゃんめソーミン」で祝う

喜屋武では、昔から新築や結婚などの祝いごとには、赤飯や三枚肉などとともに、「ちゃんめソーミン」が出されます。これは豚肉のだし汁で茹でたそうめんの水気を切り、豚肉(ロース)、紅ショウガだけというシンプルなもので、お祝いの席には欠かせないごちそうです。また、伝統行事や伝統芸能にも特徴があり、旧暦の6月25・26日の二夜にわたって行われる、俗に「けんか綱」と称される「喜屋武の綱曳き」や旧暦の8月の十五夜遊びでの定番演目の「獅子舞」、「長者の大王」などがあります。

かみざと(カミザトウ)

神里



神里青年会のエイサー

- 人口: 838人
- 世帯数: 319戸

神里の獅子舞

いにしへの郷愁を誘う里

神里に伝わる獅子舞は約300年前に始まったとされ、ムートウヤ(本家)の一つである「田本(屋号)」の照屋善彦さんの自宅を保管しています。旧暦8月10日、5カ所のムートウヤを訪ね、その家々の拝所に獅子を奉納して回ります。また、1985年に玉城村(現南城市)奥武に指導を受けて始まったエイサーも盛んで、旧盆や町の「ふるさと祭り」や「芸能まつり」などの行事にも積極的に参加し、勇壮な舞を披露しています。

※人口・世帯数は平成28年2月現在のものです。

第四次南風原町総合計画

とものつくる「黄金南風の平和郷」

地域社会への愛着と誇り、そして自ら責任を持って暮らす町民が個々の思いを表し、意見を交わし夢や目標を実現していくそのようなまちづくりを目指しています。

【黄金南風】いつの時代もあることなく輝き続け、豊かな実りと繁栄をもたらす風の吹く南風原を表しています。
【平和郷】先の大戦から復興を踏まえ、恒久平和を願う南風原を表しています。

平成29年度から**第五次総合計画**が始まります。

まちづくりの理念

世界の恒久平和を願う町民の心を国内外へ発信し続け、平和なまちづくりを目指します。また、新たな時代の中で自立できる活力、地域力のあるまちづくり、そして自然や人と共生した暮らしを再生・創造します。

平和

私たちの祖先が平和を強く願ってきた心は、豊かなコミュニティ社会や歴史的・文化的遺産として、今日でも住民に受け継がれています。私たちはこうした資産を、暮らしのなかに活かすとともに、世界の恒久平和を願うわがまち南風原の心を、国内はもとより世界に向けて発信し続ける、平和なまちづくりをめざします。

共生

私たちの祖先は、緑豊かな丘を背に、住み心地良い暮らしや、豊かな土地での畑づくりなど、自然と調和して暮らす知恵を築いてきました。また、人々はお互いに支えあい、団結してムラづくりをすすめてきました。まちの様相が移り変わる中で、私たちは、改めて、自然との調和、人と人とのつながりなど、色々な場面で自然や人と共生した暮らしを再生・創造していくまちづくりをめざします。

自立

豊かな実りと繁栄をもたらすと云われる南風が脈々と流れる南風原は「羽衣伝説」、「飛び安里」の伝承の地です。私たちは、夢と希望をもって大空へ羽ばたくロマンとチャレンジ精神を受け継ぎ、うるおいをもたらす南風を活かして、新たな時代のなかで、自立できる活力、地域力のあるまちづくりをめざします。



素敵な町にするんだルン♥



実施計画

毎年見直し

基本計画に基づいて、毎年「どのような事業を行うのか」、「経費はどれだけ必要か」などをまとめたもの

基本計画

5年計画

前期 平成19年～平成23年度
後期 平成24年～平成28年度
教育・文化・福祉・健康・環境・交通・都市基盤・産業など、分野ごとに「何をやるのか」具体的にまとめたもの

基本構想

10年計画

【平成19年～平成28年度】
南風原町がめざす「将来像・大きな目標」を定めたもの

まちづくり目標

① みんなで考え、みんなで創る わくわくするまち

私たちは、みんなで考え、みんなで創る協働のまちをめざします。このため、情報共有により、住民と行政が相互理解を深め、それぞれの役割と責任で住みよいまちづくりをすすめて、新しい時代を拓いていきます。

② 人もまちも さらさら育つまち

まちは自然にできるものではなく、「人」と「人」のつながりの中で創られるものです。そのつながりは地域をより良くしたい、より快適に暮らしたいという、そこで生活を営む人のさまざまな思いによって育まれます。私たちは次に掲げる3つの教育、「家庭教育」、「ふるさと教育」、「学校教育」を相互に結びつけ、その関係性をつなげていくことで、「人もまちもさらさら育つまち」南風原町をめざします。

③ ちむぐくるでつくる 福祉と健康のまち

住民一人ひとりが心と身体の健康を大切に、明るく健やかな明日への希望を持って生活するまち、それをまちづくりの基本にします。

私たちは、福祉と健康のまちづくりに主体的にかかわっていくことにより年齢や性別、国籍にかかわらず、すべての住民が進んで社会参加し、介護や援助が必要な人にはその自立にむけて、地域ぐるみ町ぐるみで支援ができるまちをめざします。

そして一人ひとりのしあわせのために、みんなが自分でできる活動に参画する福祉のネットワークづくりを推進します。

④ 工夫と連携で産業が躍動するまち

産業の活力は、工夫と連携によって生み出される信頼と魅力です。私たちは、個々の産業が自主的に力を発揮し、産・学・官・民の連携により、自立した活力と働く場をつくる「工夫と連携で産業が躍動するまち」をめざします。

⑤ みどりとまちが調和した安心・安全のまち

人は暮らしの礎に安心・安全を求め、さらに利便よく快適さのある暮らしを望みます。私たちは、誰もが安心して暮らせるまちづくりを基本として、町内に残された三大森(新川森、黄金森、高津嘉山)等の貴重な自然と都市の利便性が共存し、うるおいを感じる「みどりとまちが調和した安心・安全なまちづくり」をめざします。

⑥ 環境と共生する美しく住みよいまち

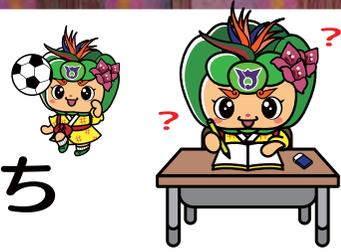
私たちが心豊かな生活を営む上で、環境は重要な要素です。これまで、私たちは住みよい生活環境の整備に取り組んできましたが、都市化の進展などに伴い、身近な日常生活の環境悪化が懸念されています。さらに、地球の温暖化、オゾン層の破壊等、私たちの生活している地域を越えて地球規模での環境問題が深刻になっています。

このため、はえばるの身近な生活環境や地球環境を共有の財産として将来にわたって引き継いでいくために、環境と共生するまちの創造をめざします。

教育文化

第四次南風原町総合計画

人もまちも きらきら育つまち



戦争マリア犠牲者の名前が刻まれた碑(西表島:「忘勿石」(2013年))



ひめゆり祈念資料館前の「赤心の塔」(2013年)



学童疎開地での交流・寺迫小学校(宮崎県:2014年)

南風原町子ども平和学習交流事業

毎年町内四つの小学校6年生が集まり、身近な戦争の歴史を学習し、平和や人権、差別の問題も含めて考えます。

沖縄戦や他地域の戦争、原爆被害、ハンセン病、人種・男女・地域・職業差別など人権問題についての実態を知り、また人との出会いや仲間作りを通して学習しています。

平成27年度は沖縄戦から70年を迎え、米軍上陸や、戦闘のなかった地域での戦争被害を学ぶため、「戦争マリア」について八重山を訪ね、「集団自決」について座間味島を訪ねました。(本事業は平成6年度から始まり平成27年度までに238人が参加しています)



広島原爆ドーム(広島県:2012年)

Education & Culture

In Haeburu Town, learning support volunteers provide assistance at elementary and junior high schools. There are children's peace study exchange projects for learning about war and human rights, youth international exchange projects for developing an international perspective in our youth through homestays, and lifelong learning projects based at community centers.

Moreover, sport tournaments are held and other events which everyone from children to senior citizens can enjoy participating in.



うちなーぐち大会

これまで語り継がれてきたウチナーグチのあたたかさや祖先の心にふれ、あわせて南風原町の伝統文化に対する理解を深める機会とするため、町内の小学生・中学生・高校生・一般を対象にウチナーグチで童話・昔話・生活体験・戦争体験・自分の意見等をウチナーグチで発表する大会となっています。



青少年国際交流



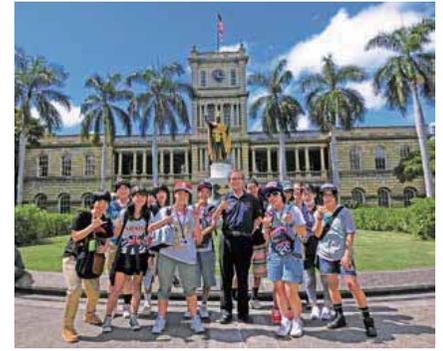
青少年国際交流事業は、青少年を海外に派遣し、教育・文化等の視察学習や現地公立校への体験入学及びホームステイを通して、国際時代に対応しうる青少年を育てることを目的に毎年実施しています。

平成5年にハワイから始まった同事業は、平成12年の九州・沖縄サミットで本町にカナダのジャン・クレティエン首相を招いたのを機に平成14年にカナダとの交流が始まり、平成15年にはカナダのレスブリッジ市と友好都市関係結びました。

現在は隔年でハワイとカナダへ本町の中学生を派遣しています。



カナダ研修(レスブリッジ市長表敬訪問)



ハワイ研修(カメハメハ大王像前)



学校応援隊はえばる

南風原町学校支援地域本部事業

南風原町の各小中学校では、地域の人たちがボランティアで学習支援などを行っています。「学校応援隊はえばる」の愛称で、朝や放課後、夏休みの補習における学習支援、職業人講話などの授業の補助、クラブ活動支援など多岐に渡って支援を行っています。そのことにより、学校教育の充実だけでなく、地域の教育力の向上や地域の絆づくりにつながっています。

また、毎年開催しているボランティア懇親会は、子供たちからの感謝のビデオレターやボランティアによる余興など、楽しくボランティア同士が懇親を深める恒例行事となっています。



生涯学習の振興

中央公民館を生涯学習の拠点とし、町民ひとり一人の学習の場、語らいの場、交流の場とし、いつでもだれでも気軽に利用できるような施設、設備の充実と生涯学習ニーズに応える事業を展開しています。

スポーツ・レクリエーションの振興

子どもから大人、高齢者まで、スポーツの楽しさを通じて、体力・健康づくり更には競技力向上を目的とし、「シニアスポーツ大会」、「夏休み水泳教室」、「アイススケート教室」、「町小中学生陸上競技大会」、「かすり駅伝」、「新春マラソン」、「町体育協会各種競技大会」などを開催しています。また、参加者相互の親睦交流や仲間づくりに繋がります。



新春マラソン大会



南風原町陸上競技大会

健康 福祉

第四次南風原町総合計画

ちむぐるでつくる 福祉と健康のまち



一般介護予防事業(ミニデイ)の様子(兼城)

健康福祉の町づくり

町では「住民一人ひとりか心と身体の健康を大切に、明るく健やかな明日への希望を持って生活するまち」をまちづくりの基本にしています。

福祉と健康のまちづくりに主体的に関わっていくことにより、すべての住民が進んで社会に参加し、支援が必要な人にはその自立に向けて、地域ぐるみ町ぐるみで支援ができるまちを目指しています。

その実現にむけて、保健・福祉・医療の連携、健康づくりと保健福祉サービス基盤の整備、ともに支えあうという地域福祉の推進を図ります。



ちむぐるの館内に併設されている健康増進室

Developing a Health and Welfare Town

The foundation of Haebaru Town is the creation of a municipality "where each and every resident values emotional and physical health, and lives with the hope for a bright and healthy tomorrow."

Through initiatives to develop municipal health and welfare, we aim to be a town where assistance is provided to individuals through community-wide and town-wide support networks to enable all residents to participate in society and help those in need to achieve independence.

To realize this goal, we are working to coordinate public health, welfare and medical care, develop the public health and welfare service infrastructure, improve health, and promote community welfare so that there is mutual support.

ちむぐるの館 総合保健福祉防災センター

「ちむぐるの館」は、南風原町における保健活動や地域福祉活動の拠点として、また災害時の避難場所として平成 22 年 9 月に開館しました。町保健福祉課と町社会福祉協議会の事務所があるほか、健康器具などが置かれた健康増進室、ホール、母子室、調理実習室、相談室や会議室なども収容されており、多くの住民に活用されています。

住所：南風原町字宮平 697 番地 10
【開館時間】
月～土：8:30～21:00
日・祝：8:30～17:00
【休館日】12月29日～1月3日
TEL 098-889-3213
FAX 098-889-6269



国民健康保険の充実

南風原町では、加入者へ出産育児一時金・葬祭費・移送費・補装具等など療養費の支給をはじめ、入院費食事代の負担や「特定疾病療養受領証」などの交付も行なっています。

また、平成 20 年度から始められた「特定健康診査・特定保健指導」では、これまでの未受診者や若年層への受診勧奨で重症化を防ぎ、年々増加する医療費の抑制を図る取り組みが行なわれています。



健康づくりと高齢者・障がい者福祉の充実

町では住民の健康の保持・増進を図るため、特定健診、乳幼児健診の受診率向上と保健指導の充実に取り組んでいます。

また要介護・要支援状態となる高齢者を減らしていくため、筋力トレーニング教室や水中運動教室等の介護予防事業を強化しています。

障がい者についてはニーズを踏まえつつ生活支援、就労に関する支援を強化し、生きがいづくりに努めていきます。



南風原町身体障がい者福祉会ボウリング大会



一般筋力トレーニング教室



サーキットマシントレーニング教室



南風原町民の健康を願い
派手にPRしています♥



ちむぐるの館

産業振興

第四次南風原町総合計画 工夫と連携で 産業が躍動するまち



農業の振興

南風原町南部に長年待ち望んでいたファーマーズマーケットが完成し、新鮮で農家の顔の見える安心・安全な農産物の販売が行われております。年中通してゴーヤーやナーベラーが並び、特産品であるかぼちゃやストレリチア、マンゴー、スターフルーツなど四季に応じた生産物で様々な販売促進イベントが開催されています。

6次産業化について、機械や施設整備を通して農家が生産した農産物の加工、商品開発を支援し、露地栽培では施設整備の推進により、台風、病害虫、鳥獣等の被害防止・安定生産を推進します。

また、担い手においても農業青年クラブ員を中心に活発な事業が展開されており、今後の南風原町農業の地域リーダーとしての活躍が期待されます。

Leaping Haebaru Industrial Development

In Haebaru Town, agriculture is flourishing with the production of many local specialties such as loofah, pumpkin, mango, star fruits and so on.

The long-awaited farmers market has been completed, and the town is working to promote agriculture by furnishing routes from production to sale.

Along with holding the Haebaru Product Exhibition, we are promoting commerce and industry through the Haebaru Town Commerce and Industry Association. Working with the Haebaru Town Tourism Association, we are also working hard to promote tourism.



平成27年4月にオープンしたファーマーズマーケット南風原「くがに市場」



スターフルーツで県より拠点産地認定を受けました(平成27年1月)



ニッポン全国物産展(東京都豊島区)に出展し、町特産品をPR



商工業の振興

南風原町では平成27年度に南風原町中小企業・小規模企業振興基本条例を制定しました。本条例は本町の事業所の大多数を占める中小企業・小規模企業の振興を図り、本町の地域経済を活性化させることを目的としています。

また町商工会との連携のもと、町内事業所からの各種相談及び創業支援・経営革新支援等を行っています。



物産展で南風原特産品をPRするはえるん



町商工会主催の経営セミナーの様子

観光の振興

南風原町では観光振興を図るため、平成25年に南風原町観光協会が発足しました。

住民参加型の観光振興を目指し、地域のまちまいの開催や古民家を活用したイベント、脚本家の「金城哲夫」氏を活用した観光まちづくりを推進しています。

また観光協会では、夏休みに子ども向けのイベント「キッズパーク」を開催し、お仕事体験や工作体験などを行っています。



シマジマ巡り「津嘉山まちまい」



シマジマ巡り「かすりの道ツアー」



はえるん夏休み キッズパーク



古民家「脚本家」を活用して地域の伝統芸能や音楽サークル、お茶会等を開催しています



防災安全

第四次南風原町総合計画

みどりとまちが調和した 安心・安全のまち



人に優しい安全な町づくり

町民一人ひとりに広く交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるために、交通安全運動を展開しています。

南風原町を管轄する与那原警察署と連携し、各幼稚園や小学校での交通安全教育、交差点での立哨活動、運転者に周りを「よく見る」ように注意を促す「ミルミル運動」等、児童から成人に至るまで交通安全の教育・啓発を行っております。

夜間パトロールで防犯

毎月夜間パトロールを行い、防犯を行うと同時に、児童が非行に走らないように青少年健全育成を行っています。また、防犯灯を町内各地へ設置・管理を行い、町内に暗いところや危険な場所をなくすことで犯罪を抑止しています。



Disaster Prevention and Safety

Haebaru Town occupies a strategic point along transportation routes in the southern region. For that reason, this area is a place for vehicles and people to easily converge, and the prevention of crime and accidents is an important issue. We are making the utmost effort in collaboration with relevant organizations to address these issues through traffic safety education, crime prevention patrols and by calling attention and alerting people to these issues.

Also, foodstuffs and bedding have been stockpiled in case of a disaster. By providing disaster prevention training and information, we are working to improve disaster awareness with the aim of creating a safe and secure town.

東部消防署の概要

本組合は、与那原町、南風原町、西原町の3町で構成され、管轄面積31.84km²、人口90,519人、世帯数34,596世帯(平成27年3月末現在)です。

組合議会は、構成町の議会から選出された議員9名(各町より3名)で、執行機関は、管理者、副管理者(構成町長の互選により選出)会計管理者(管理者の属する町の会計管理者を充てる)で構成され、監査委員は議会議員選出1名、識見を有する者1名(計2名)を選任して組合運営が行われています。



東部消防組合消防本部

安心で快適な町づくり

町民の健康・生命・財産が、あらゆる災害や災難で脅かされることなく、安心して暮らすことが出来るように、本町では、南風原町地域防災計画を作成し、防災体制の構築や食糧備蓄など、計画に沿った施策を実施しています。

更に、避難訓練や住民への各種情報の提供を行い、防災意識の向上を図ることで、安心・安全な町づくりをめざしています。



AEDの使用方法及救難訓練、ドクターヘリ・救急車両の展示が行われた防災フェア(イオン南風原店)



災害に備え防災訓練で連携強化

南風原町、東部消防組合、与那原警察署が連携して災害情報収集、対策本部設置訓練から被災者救助訓練、炊き出し訓練など、地域住民と一体となった様々な訓練を実施し、地域住民、役場、消防、警察との被災時における連携を強化しております。



南風原町総合保健福祉防災センター(ちむくる館)

もしもの為に食料を備蓄

本町では、大規模地震が起きた際に想定される避難者、町の人口約1/20の3日分を目標に食料や簡易トイレ等を整備しています。

リスク分散のために、災害が起きた際には避難場所となる町内のいくつかの公民館内に分けて備蓄されています。しかし、公共備蓄には限りがあるので、各個人もそれぞれ備蓄を行うのが理想です。



浦崎直力さん

幼い頃から消防士に憧れていましたが、高校三年生の頃、家の目の前で交通事故があり、車の中に閉じ込められている人の救助にあっていたのが消防隊員でした。その時の自分はただただ見守るばかりで、素早い動きで対応する消防隊員の姿を見て、「人のために役にたつ事を将来の仕事にしよう」と強く心に決め、現在、消防隊員として勤続5年目を迎えました。ちなみに先の消防隊員は現在の上司です。

普段の仕事は、実際の災害・事故への出動のほか、これらを未然に防ぐための学習・訓練に24時間体制であっています。

今までもそうですが、自分の生まれ育った南風原町を守ることに誇りを持ち、そこに住む人たちが安全に安心して暮らせるよう、また、「南風原に住んで良かった」と思えるよう、これからも訓練に励んでいきたいと思っています。



生活環境

第四次南風原町総合計画

環境と共生する 美しく住みくよいまち



かぼちゃ栽培のための土作り(緑肥)として栽培されたひまわり畑(宮平土地改良区内)



Development of the Living Environment

We are emphasizing environmental development to make Haebaru Town a beautiful and pleasant place to live.

The town government implements a variety of programs for improving rainwater and sewage treatment through the public sewer system, developing parks which parents and children may enjoy safely, initiating volunteer cleanup activities which many residents participate in, promoting recycling through the Haebaru Eco Center and educating residents about such efforts, as well as communicating information about the environment.

下水道事業の推進

南風原町の公共下水道は、703ヘクタールを計画区域として雨水・汚水の整備を行っています。

昭和55年に事業に着手し、雨水整備は津嘉山地区、照屋地区を中心に整備を行っており、汚水整備は津嘉山北土地区画整理区域内を主に整備を行い、平成27年3月末現在では計画区域の約47%が整備されています。



町内小学生を対象とした夏休み下水道体験学習風景

今後も、都市基盤としての雨水・排水施設の整備を図り災害に強いまちづくりを推進します。さらに汚水整備を推進し、生活排水による河川の汚濁を防止し、快適で文化的に暮らせるまちづくりをめざします。



親子で安心して楽しめる公園整備推進事業

南風原町においては総合公園1カ所、近隣公園4カ所、街区公園6カ所、緑道1カ所、緑地1カ所の計13カ所を都市公園として都市計画決定しています。平成26年度末現在で総合公園1カ所、近隣公園3カ所、街区公園1カ所、緑道1カ所、緑地1カ所の計7カ所が整備され(一部供用の公園を含む)広く町民に利用されています。

近年は親子で楽しめる公園施設整備として、本部公園と宮城公園の遊具更新時に町の特産品をモチーフにした大型遊具を設置しました。また、黄金森公園に南風原町のゆるキャラ「はえるん」がデザインされた遊具のある「はえるん広場」を整備し子供たちから喜ばれています。



南風原特産品へちま(南瓜)をイメージした「ピュウリーランド」(宮城公園)



南風原特産品のチンクワ(島カボチャ)やストレチアを模した「野菜王国チンクワランド」(本部公園)



はえるん広場(黄金森公園)



ゆいレール(那覇都市モノレール)型の遊具(宮城公園)

道路ふれあい月間清掃(8月) / ちゅら島町内一斉清掃活動(12月)

町内の環境美化の促進と美化啓発活動を行い、町内住民や企業のみなさまが参加することによって、美しい地域づくりを目指すことを目的に毎年8月と12月に清掃活動を行っています。

道路ふれあい月間では、町道の清掃、及び町内の不法投棄処理を行い、ちゅら島町内一斉清掃活動では、黄金森公園周辺を中心に清掃を行っています。



本部公園前の道路沿い咲くカンナの花



ちゅら島町内一斉清掃(12月)

カンナの花で環境美化活動

町の環境美化を目的に道路沿いにカンナの花を植える活動が進められており、通行人の目を和ませています。

はえばるエコセンター

エコグッズ販売

エコツアーの企画・公演

リサイクルの普及・啓発活動、環境情報の発信拠点として、はえばるエコセンターを運営しています。

また町内児童館と連携した子供たちへの環境学習や一般向けの環境学習等、より一層の環境情報発信の場となっております。

更に環境だけでなく、ごみの減量化を目的とした各種事業も行っています。



エコで楽しくクッキング ～ミネストローネ～



たまねぎ染め ～わくわく放課後広場～



黄金森植物観察会 ～押し花でしおりづくり～



フリーマーケットinはえばる



生ごみから堆肥づくり～兼城児童館～



「循環のわ」エコツアー ～のぞみの里～



行政

町民と共に新しい町づくりの風をおこしたい Administration



飛び安里の有人飛行機 1/2 スケールのレプリカ



南風原町とカナダの友好の礎

ひらめきを熟知、 着実に行動にうつす町。

現在は、社会性の複雑化、価値の多様化等により、町民一人ひとりのニーズ、要望も多岐にわたる時代ですが、目指すところは同じです。町では、すべての人が安心して快適な生活、幸せな生きがいのある人生をおくることができるよう努めています。

町民の声に、柔軟かつ迅速に対応し、創意工夫をこらした積極的な運営をすすめています。



情報満載

広報はえばる
南風原町の旬の話題や役場からの報告・お知らせ等
情報満載の月間情報誌



南風原町HP

役場施設のご案内

- 5F 議場・議会事務局
- 4F 教育長室・教育総務課・学校教育課・産業振興課
まちづくり振興課・都市整備課・区画下水道課
- 3F 町長室・副町長室・総務課・企画財政課
- 2F 保健福祉課・税務課
- 1F 住民環境課・国保年金課・こども課・会計課
- B1 書庫・倉庫

南風原町役場に設置された
かすり柄の郵便ポスト
(南風原中学校美術部の生徒が着色)



議会

町民の声を反映させた 町づくりをめざして。 Assembly

議会中継

を始めました。



町ホームページ左側の
『町議会中継』を
クリックしてください。



町民の声を行政に活かす。

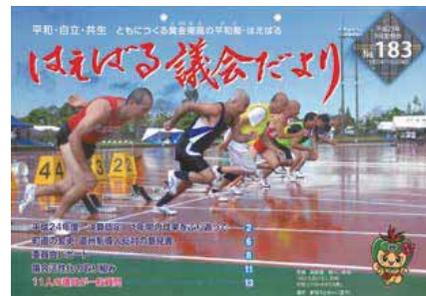
南風原町議会は、16人の議員で構成されています。議員は町民の代表として選出され、町政の円滑な運営、町民が安心して生活できるように条例や予算などを議決します。

定例会は年4回開かれ、必要に応じて臨時議会が開かれます。また、本会議のほか、3つの常任委員会（総務民生・経済教育・議会広報）があります。

これからは「住民福祉サービスの向上」と「開かれた議会」の実現に向けて、町政に取り組んでいきます。

はえばる議会だより

町民の皆様へ町議会への理解と関心を高めていただくために、定例会の概要や、一般質問での質問・答弁の要旨、議案に対する賛否一覧などを掲載し町民の皆様へ情報開示しています。



沖縄県町村議会広報コンクール第1位を受賞した議会だより183号



議員(平成26年10月現在)



議会報告会・意見交換会



世界とつながる 南風原の心

Spirit of Haeburu Connects the World



戦争で獅子が消された事を知った宮平出身のハワイ移民者が新しい獅子を寄贈した1950年(昭和25年)

南風原の海外移民の歴史

沖縄は、昔から土地や資源に乏しく貧しい生活を強いられていたので、多くの人々が海を越えて行きました。南風原の人々も、1899(明治32年)のハワイ移民を皮切りに、南洋群島や南米等に移民しました。

移民地では、名を成し財を蓄えた人もいましたが、志半ばにして名もなく貧しく倒れた人もいました。そのような中でも彼らは故郷を思いながら異国の地で踏ん張り、今では子や孫の二世・三世・四世がその国でしっかりと根付いています。

私達は、忘れてはならない時代の、忘れてはならない人々がいたことを、そして今、南風原のその子孫達がいることを忘れてはなりません。

History of Haeburu Immigrants

Since long ago, Okinawa has had little land and resources, which has forced people to live in poverty. So, many people crossed the seas to go to other countries.

People from Haeburu also began to immigrate to Hawaii in 1899 as well as to the South Sea Islands, South America and other places.

In these lands where people immigrated, some made a name for themselves and amassed fortunes, while others lost their lives without much recognition before fulfilling their goals. These people persevered in a foreign land while their homeland was always in their heart. Today, their children and grandchildren of the second, third and even fourth generations are firmly rooted in these countries.

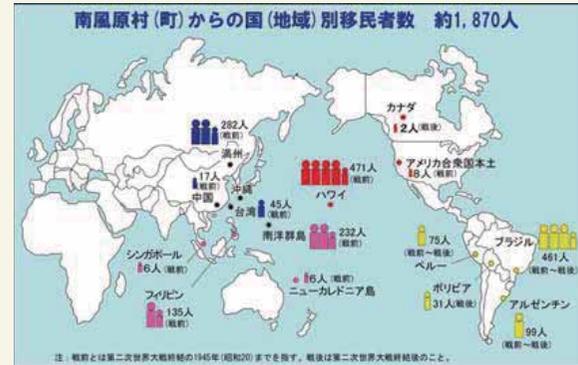
We must never forget that there are people who must not be forgotten from a time that must not be forgotten, and we must always remember the descendants of Haeburu.

海外から故郷の復興を願った 「沖縄救援運動」

戦争で多くの人や物を失った沖縄に対して、ハワイや南米・北米の沖縄県人会が沖縄の復興支援のために数多くの救援団体を組織し、衣類や食糧、医薬品、日曜雑貨などを米海軍の協力のもと輸送しました。また、学校や図書館などの建設資金や文化事業の援助も行い、戦後の沖縄の復興に対する海外移民の果たした役割は非常に大きなものがありました。



（南風原文化センター敷地内）
二世がまいた種が二世・三世の時代に芽を出し、子孫が繁栄してほしいという願いが込められた旗歌が刻みこまれています。



海外移住者子弟研修生受入事業

平成元年より、南風原町に「海外移住者子弟研修生受入事業」で、移民先の子弟が毎年訪れています。南米(ブラジル、ペルー、アルゼンチン)やハワイから若者たちが親戚を訪ね、沖縄や南風原のルーツをたどり、歴史や文化を学んでいます。帰国後は、その事業のOBたちと連携し、南風原から訪れる人々を受け入れるなど交流が続いています。移民した人たちは、故郷を忘れることはありません。そしてそれは子や孫の時代になっても引き継がれていきます。



沖縄の伝統文化を学び披露する海外移住者子弟研修生



カナダ・レスブリッジ市との交流

南風原町は、2003年からカナダ国アルバータ州レスブリッジ市と友好都市を結んでおり、南風原町の中・高校生がレスブリッジ市にホームステイをしながら体験学習をするなど、国際交流を行っています。

また2015年8月には、レスブリッジ市で沖縄県人カナダ移民115周年記念式典が開催され、南風原町も招待されました。カナダにある4つの県人会をはじめ、沖縄2世～5世まで幅広い世代が参加する中、津嘉山青年会がエイサーや鉦鼓隊の演舞を披露するなど、交流を深めました。

資料編 DATA

- 人口**60p
 - ◎住民基本台帳人口と世帯数の推移
 - ◎年齢3区分別人口割合の推移
 - ◎年齢5歳階級別人口
- 町歌・町民音頭**63p
 - ◎南風原町歌
 - ◎南風原音頭
- 南風原のあゆみ**64p～65p
- テレホンガイド**66p～67p
 - ◎町の公共施設
 - ◎国の公共施設
 - ◎県の公共施設
 - ◎その他の施設
- 機構図**68p
 - ◎南風原町行政機構図
- 目で見る南風原**69p
- 土地・気候・財政**61p
 - ◎町の位置及び面積
 - ◎平成27年月別気温と湿度及び降水量
 - ◎主な丘陵
 - ◎町内の河川
 - ◎平成26年度一般会計決算
 - ◎町民税の内訳
- 歴代三役・歴代議長・歴代副議長**62p
 - ◎歴代町長
 - ◎歴代副町長(助役)
 - ◎歴代議長・副議長
 - ◎歴代教育長

南風原町「町民憲章」

- 一、私たちは、南風原町民であることに誇りを持ち、みんなが力をあわせ、明るく、豊かに、住みよい町をつくるため、すすんで次のことを実行しましょう。
- 一、私たちは、教育を大事にし、文化のかおり高い町をつくりましょう。
- 一、私たちは、自然を愛し、みどり豊かな美しい町をつくりましょう。
- 一、私たちは、健康で明るい家庭をつくりましょう。
- 一、私たちは、きまりと時間を守り、住みよい町をつくりましょう。
- 一、私たちは、よく働き、よく学び、豊かな町をつくりましょう。

(昭和五十八年四月一日制定)

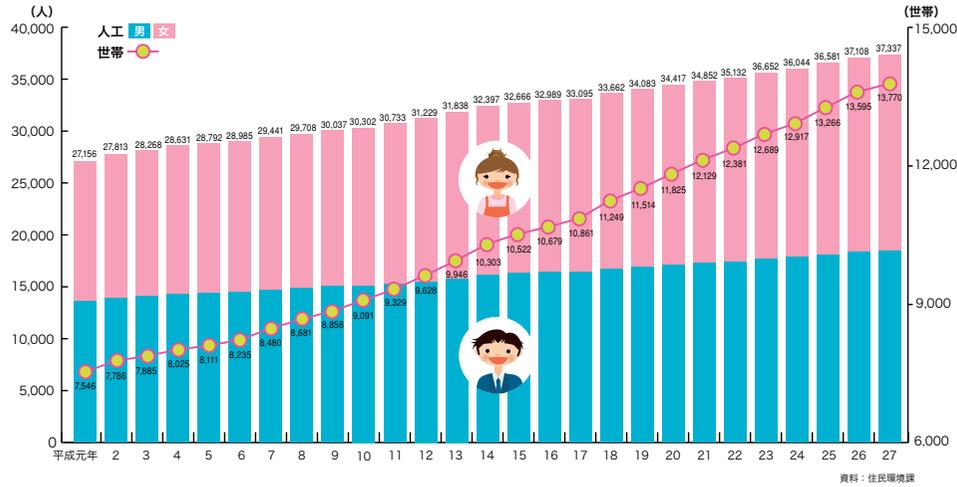


人口

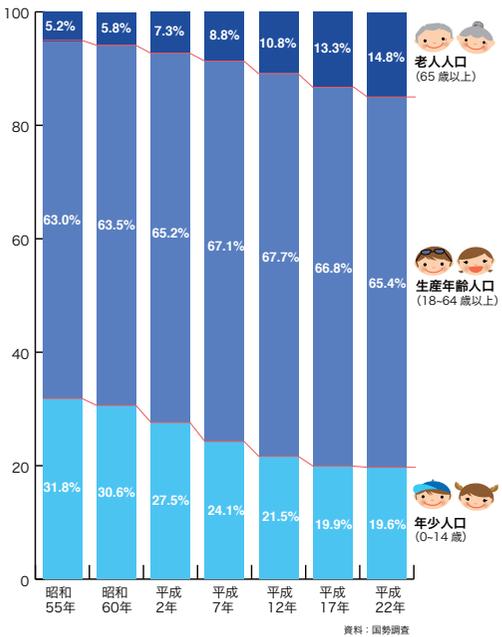
住み良い町だから人口も増えているんだルン!



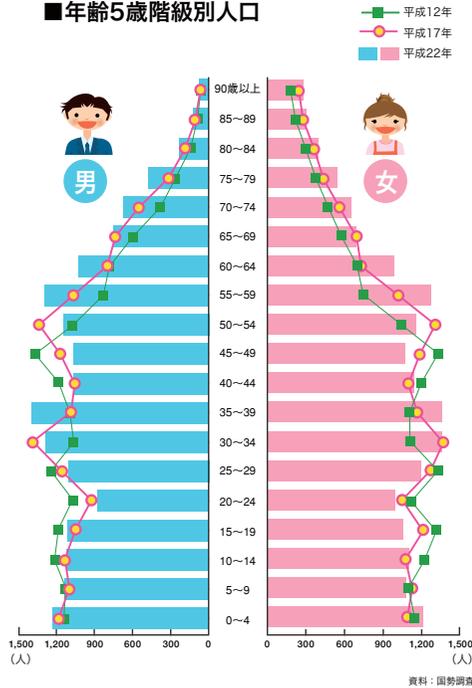
■住民基本台帳人口と世帯数の推移 (各年12月末日現在)



■年齢3区分別人口割合の推移



■年齢5歳階級別人口



土地・気候・財政



平成26年10月1日現在

海はないけど素敵な公園がいっぱいあるんだルン!



■町の位置及び面積

南風原町の位置・面積				庁舎の位置	
方向	地名	経緯度	面積	所在地	経緯度
極東	与那覇	東経 127° 44' 55"	10.76km ²	宇兼城686番地	東経 127° 43' 43"
極西	津嘉山	東経 127° 42' 28"			北緯 26° 11' 28"
極南	神里	北緯 26° 10' 06"			
極北	新川	北緯 26° 13' 06"			

※建設省国土院「平成26年全国都府県市区町村別面積調」より

■主な丘陵

名称	標高	主な樹木、その他
黄金森	85.0m	タブノキ、アカギ、ハマイヌビワ、ガジュマル
高津嘉山	87.1m	タブノキ、オオバキ、ギンネム
新川森	137.1m	タブノキ、アカギ、リュウキュウマツ、ススキ

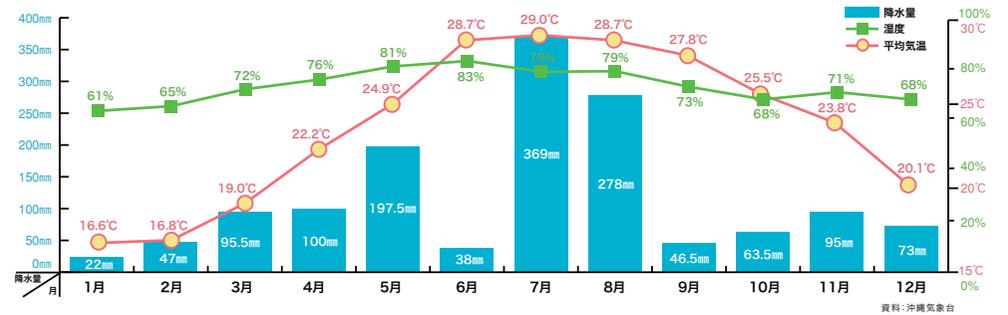
資料：生涯学習文化課

■町内の河川

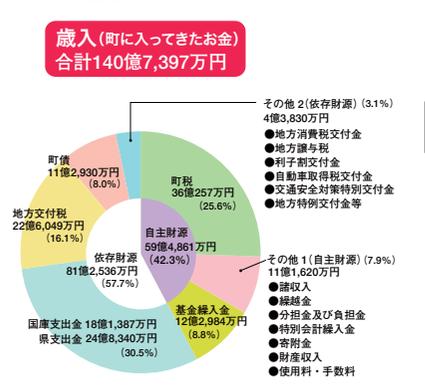
種別	河川	指定延長 (m)	流域面積 (km ²)
二級河川	国場川	8,250	43.06
	長堂川	2,300	7.39
準用河川	安里又川	800	1.77
	手登根川	800	1.14
	宮平川	1,800	3.41
	長堂川	1,053	6.04

資料：都市整備課

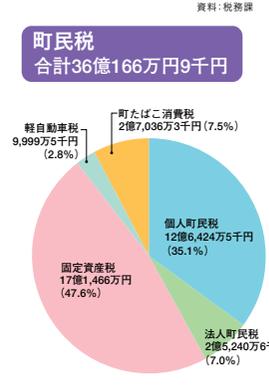
■平成27年別気温と湿度及び降水量



■一般会計 (平成26年度一般会計決算)



■町税の内訳 (平成26年度)



歴代四役・歴代議長・副議長・歴代教育長

南風原町歌・南風原音頭

■歴代町村長

歴代	氏名	就任年月	備考
初代	仲里 徳太郎	明治 41年4月	津嘉山
2代	与那嶺 甚 先	45年4月	宮 城
3代	神里 多一郎	大正 5年10月	山 川
4代	神里 多一郎	9年10月	山 川
5代	神里 吉三郎	13年8月	山 川
6代	仲 本 亀五郎	昭和 3年8月	兼 城
7代	仲 本 亀五郎	7年8月	兼 城
8代	金城 栄 禮	12年5月	喜屋武
9代	金城 栄 禮	16年5月	喜屋武
10代	与 座 章三郎	21年4月	津嘉山
11代	照屋 善 清	23年3月	神 里
12代	照屋 善 清	25年10月	神 里
13代	金城 広太郎	29年5月	津嘉山
14代	金城 広太郎	33年5月	津嘉山
15代	赤 嶺 保 信	37年5月	喜屋武
16代	赤 嶺 保 信	41年5月	喜屋武
17代	野 原 広 仁	45年5月	喜屋武
18代	大 城 徳 盛	49年5月	照 屋
19代	大 城 徳 盛	53年5月	照 屋
昭和55年4月1日町政移行			
初代町長	大 城 徳 盛	昭和 55年4月	照 屋
2代	大 城 徳 盛	57年5月	照 屋
3代	金城 義 夫	61年5月	津嘉山
4代	金城 義 夫	平成 2年5月	津嘉山
5代	金城 義 夫	6年5月	津嘉山
6代	城 間 俊 安	10年5月	津嘉山
7代	城 間 俊 安	14年5月	津嘉山
8代	城 間 俊 安	18年5月	津嘉山
9代	城 間 俊 安	22年5月	津嘉山
10代	城 間 俊 安	26年5月	津嘉山

資料：総務課

■歴代副町長(助役)

歴代	氏名	就任年月	備考
初代	神里 吉三郎	明治 41年4月	山 川
2代	神里 吉三郎	45年4月	山 川
3代	神里 吉三郎	大正 5年10月	山 川
4代	神里 吉三郎	9年10月	山 川
5代	大 城 喜四郎	13年8月	津嘉山
6代	金城 栄 禮	昭和 3年8月	喜屋武
7代	金城 栄 禮	7年8月	喜屋武
8代	与 座 章三郎	12年6月	津嘉山
9代	与 座 章三郎	16年6月	津嘉山
10代	神里 昌 慶	21年4月	山 川
11代	金城 広太郎	23年3月	津嘉山
12代	金城 広太郎	25年10月	津嘉山
13代	赤 嶺 保 信	29年5月	喜屋武
14代	赤 嶺 保 信	33年5月	喜屋武
15代	大 城 徳 盛	37年5月	照 屋
16代	大 城 徳 盛	41年5月	照 屋
17代	大 城 徳 盛	45年5月	照 屋
18代	赤 嶺 英 助	49年6月	宮 平
19代	赤 嶺 英 助	53年6月	宮 平
20代	赤 嶺 英 助	57年6月	宮 平
21代	赤 嶺 英 助	61年6月	宮 平
22代	大 城 茂	平成 2年6月	兼 城
23代	大 城 茂	6年6月	兼 城
24代	大 城 徳次郎	10年6月	本 部
25代	大 城 徳次郎	14年6月	本 部
26代	大 城 徳次郎	18年6月	本 部
地方自治法改正により助役に代えて副町長に呼称変更			
初代	大 城 徳次郎	19年4月	本 部
2代	国 吉 真 章	22年6月	那覇市天久
3代	国 吉 真 章	26年6月	那覇市天久

資料：総務課

■歴代議長・副議長

歴代	職名	氏名	備考
1	議長	大 城 森	兼 城
	副議長	与 座 章三郎	津嘉山
2	議長	与 座 章三郎	津嘉山
	副議長	中 村 義 永	宮 平
3	議長	新 垣 孝 亀	与那覇
	副議長	金 山 善 律	津嘉山
4	議長	新 垣 孝 亀	与那覇
	副議長	金 山 善 律	津嘉山
5	議長	仲 里 清 善	津嘉山
	副議長	新 垣 孝 亀	与那覇
6	議長	大 城 亀 吉	宮 平
	副議長	吉 村 正 一	津嘉山
7	議長	神 里 富 夫	山 川
	副議長	吉 村 正 一	津嘉山
8	議長	吉 村 正 一	津嘉山
	副議長	大 城 栄 吉	宮 平
9	議長	吉 村 正 一	津嘉山
	副議長	大 城 茂	兼 城
10	議長	大 城 茂	兼 城
	副議長	知 念 政 賢	大 名
11	議長	大 城 誠 守	神 里
	副議長	大 城 春 喜	喜屋武
12	議長	大 城 新 次	兼 城
	副議長	野 原 広 造	喜屋武
13	議長	城 間 俊 安	津嘉山
	副議長	大 城 栄 一	本 部
14	議長	金 城 金 成	大 名
	副議長		
15	議長	新 垣 善 清	与那覇
	副議長	中 村 勝	宮 平
16	議長	城 間 兵 勝	兼 城
	副議長	中 村 静 枝	兼 城
17	議長	金 城 成 長	津嘉山
	副議長	花 城 清 和	新 川
18	議長	中 村 勝	宮 平
	副議長	玉 城 光 雄	宮 城
19	議長	宮 城 清 政	本 部
	副議長	知 念 富 信	兼 城

資料：議会事務局

■歴代教育長

歴代	氏名	就任年月	備考
初代	新 垣 照 行	昭和47年5月	与那覇
2代	新 垣 照 行	昭和48年4月	与那覇
3代	新 垣 照 行	昭和52年4月	与那覇
4代	新 垣 照 行	昭和56年4月	与那覇
5代	照屋 善 一	昭和56年6月	神 里
6代	照屋 善 一	昭和60年4月	神 里
7代	中 村 清	昭和62年1月	宮 平
8代	中 村 清	平成元年4月	宮 平
9代	中 村 清	平成 5年4月	宮 平
10代	神里 富 夫	平成 9年4月	津嘉山
11代	大 城 昇	平成13年4月	津嘉山
12代	大 城 昇	平成17年4月	津嘉山
13代	大 城 静 雄	平成19年7月	兼 城
14代	赤 嶺 正 之	平成23年4月	宮 平
15代	赤 嶺 正 之	平成25年4月	宮 平

資料：教育総務課

南風原町のために
尽力した立派な
方々です。



南風原町歌

♩=104 はつらつと

あけゆくあさよなんごくのそら
にーかがやくひーのひかり
あふれるのぞみはつらつと
ああやくしんのくもがとぶわれ
らがきょうどはえばるーちよう

明けゆく朝よ 南国の
空にかがやく 陽の光り
溢れる希みはつらつと
あ、躍進の雲が飛ぶ
わたしが郷土 南風原町

はたらく汗よ 建設の
ちから寄せ合う 意気と熱
そよ吹く風も さやかに
あ、生産の 歌が湧く
わたしが郷土 南風原町

伸びゆく夢よ 沖縄の
明日を呼んでる 自治の郷
黄金の森も 美しく
あ、人の和の 花が咲く
わたしが郷土 南風原町

(昭和46年4月18日制定)



南風原町歌

作詞 南 益子
作曲 田場 盛徳
編曲と儀 亨

黄金の森も美しく

南風原音頭は
平和の音頭

南風原音頭

リズムカルに

かすりむすめのおがおかけて フダゲンビレアが さきにおうー
ここははげばる かすりのさとよ ゆたーかな 一まーちのー
ゆめをおーるー ゆめをおーる サツサははげばるおんどは へいのおんど
みんなそろって うたえやおどれ ユリテイクーユリテイク ドンミカセ サツサ
ヒヤーーユイ ハーイヤ イヤサツサ

① かすり娘の
フダゲンビレアが
咲き匂う
ここは南風原
豊かな町の
夢を織る

② きみは南風で
わしゃ甘蔗作り
花つくり
こころに沁みて
歌となる

③ 黄金森には
盆の踊りも
あの綱曳きに
燃えて景気も

④ 今は昔の
天女の伝説の
巡りたずねて
誓う心は

⑤ わした南風原
心ひとつに
踊る手と手が
叩は文化の
花さかり

笑顔をあげて
吹き匂う
わたしの里よ
ユリテイク ユリテイク ドンミカセ
サツサ

(以下各節はやし略)
ハハーイヤ イヤサツサ
わしゃ甘蔗作り
花つくり
こころに沁みて
歌となる
十五夜お月
にぎやかに
あの綱曳きに
湧きあがる
浦島太郎
御宿井
悲風の丘に
祈和の塔
うね御万人は
うちとけて
弥物世まねき
花さかり

(四分二十九秒)

南風原音頭
作詞 中 村 弘
補作 南風原音頭選定委員会
作曲 杉本 信夫
編曲 照屋 林 賢



南風原音頭

作詞 中 村 弘
補作 南風原音頭選定委員会
作曲 杉本 信夫
編曲 照屋 林 賢

はえばるのあゆみ

年	月	日	沿革
明治41年	4月		町村制施行に伴い、勅令第46号によって間切を村に改め、南風原村になる
昭和6年	4月1日		南風原小学校を南風原国民学校に改称
20年	5月		南風原国民学校、戦災により消失
21年	1月23日		南風原村役所を大見武に設置
	2月1日		南風原小学校開校、大見武において挙行
	4月20日		南風原村農業組合設置
	10月12日		南風原小学校敷地内に村役所を設置
22年	8月		南風原村婦人会結成
	8月		南風原村青年連合会結成
23年			南風原村公社復興期成会結成
	4月1日		学制改革により6・3・3制が実施され、南風原中学校が創立
25年	9月1日		南風原村役所の新庁舎が兼城に落成(現南風原小学校敷地)
	9月		南風原村に納骨堂をつくり、1,003柱の慰霊祭を挙行
26年	4月1日		南風原村大名が分離し字となる
	8月		村農業改良委員会設置～24日、
27年	4月28日		納骨堂の全遺骨を火葬、納骨祭挙行
	5月11日		南風原区教育委員会発足
28年	7月1日		南風原小学校校舎(鉄筋コンクリート)落成
	10月10日		南風原村農業共同組合より津嘉山農業共同組合が分離
29年	12月1日		津嘉山、照屋、本部、喜屋武、兼城、宮平、と那覇が沖繩配電により各戸点灯
30年	3月		山川、神里が沖繩配電により各戸点灯
	7月		宮城、大名が沖繩配電により各戸点灯
32年	2月		新川が沖繩配電により各戸点灯
	3月		南風原土地改良組合創立
34年	9月		南風原村役所新庁舎(鉄筋コンクリート)落成
35年	10月15日		県立積和病院建設工事着工(新川)
36年	1月		宮城公民館落成祝賀会
	8月		南風原中学校校舎(鉄筋コンクリート)落成
38年	9月		南風原村に慰霊塔建立
	9月17日		南風原村老人クラブ連合会発足
40年	6月1日		南風原小・中学校で完全給食実施
41年	3月		南風原陸軍病院跡に悲風の丘記念碑建立
	6月		南風原村兼城に慰霊祈和の塔建立
	6月		沖繩県内初の役場へのコンピュータ導入
44年	3月14日		南風原村青少年健全育成協議会設立
	12月14日		南風原小学校体育館落成
45年	7月		大名の摩文仁家の墓、県指定の有形文化財建物として登録
46年	4月18日		村歌・村章を制定
	9月10日		南風原村史を發刊
	10月1日		村立宮平保育所落成
47年	3月17日		南風原小・中学校運動場整備工事着工
	5月15日		本土復帰により南風原村役所を役場に改称
	5月15日		本土復帰により南風原教育区教育委員会が南風原村立教育委員会へ組織変更
	5月16日		ドルから円へ、通貨切り替え
	10月1日		救急業務解説、大型消防車購入
	10月1日		国民健康保険制度を実施
	10月1日		農業委員会設置
48年	4月1日		村立幼稚園(宮城、兼城、宮平、本部、照屋、津嘉山)落成
49年	3月31日		村立幼稚園園舎(南風原、津嘉山)落成
	10月27日		南風原中学校体育館落成
	11月27日		南風原村総合計画、策定
50年	4月1日		南風原村立津嘉山小学校開校(南風原小学校より分離)
	8月29日		南風原村社会福祉協議会設立
	8月29日		家庭春社員制度開始
51年	4月1日		東部消防本部設立
	10月29日		神里地区土地改良事業着工
	10月29日		かぼちゃ特産地宣言
	10月30日		神里児童公園完成
52年	3月30日		学校給食共同調理場落成
	10月18日		琉球がすりの里宣言
	11月1日		県営第一南風原団地、入居開始
	11月5日		南風原村商工会発足
	12月8日		住宅供給公社分譲団地、分譲開始
	12月10日		津嘉山小学校体育館落成
53年	2月25日		南風原村立中央公民館落成
	4月		役場に、コンピュータ端末機導入
	10月10日		体育協会、文部大臣表彰を受賞
	10月26日		県営第二団地、入居開始



はえばるのあゆみ

年	月	日	沿革
54年	1月21日		国から「琉球がすりの産地に指定される
	7月18日		南風原町交通安全推進協議会結成
	12月26日		南風原中学校生徒による模擬議会の開催
55年	3月		南風原小学校プール落成
	4月1日		南風原町として町制施行開始
	4月12日		琉球がすり会館落成
	4月26日		第一回南風原まつり開催
	7月19日		南風原町立津嘉山地区公民館落成
56年	4月1日		南風原小学校の校区の一部変更により、第二団地を津嘉山小学校へ編入
	4月1日		社会福祉センター落成
	5月8日		津嘉山小学校プール落成
	5月20日		南風原町身体障害者福祉会結成
	8月25日		旧陸軍病院跡で映画「ひめゆりの塔」の撮影開始(28年ぶり)
	11月12日		旧陸軍病院跡で映画「ひめゆりの塔」の撮影開始(28年ぶり)
57年	2月27日		南風原町献血推進協議会発足
	3月29日		「非核平和の町」宣言
	4月1日		東部消防組合南風原分遣所の新庁舎落成
	4月7日		南風原町立北丘小学校開校
	6月25日		南風原町交通安全母の会発足
	8月7日		津嘉山大綱曳き10年ぶりに開催
	9月1日		南風原小学校・幼稚園の落成(南風原小学校・幼稚園より分離)
	12月25日		町の木にリュウキュウコクタン、町の花にブゲンビリアを制定
58年	1月27日		健康づくり推進協議会発足
	4月1日		「町民憲章」制定
59年	1月19日		宮平川河川改修工事開始
	3月25日		第一回南風原町社会教育大会開催
	4月		町教育委員会、文部大臣より表彰
	9月6日		国体南風原町実行委員会設立
60年	8月26日		南風原町総合計画審議会発足
	11月29日		第一回南風原町社会福祉大会開催
	12月7日		第二回南風原まつり開催
61年	3月8日		第一回こどもまつり開催
	3月		第二次南風原町総合計画書、策定
	5月1日		南風原高校線開通
	6月28日		第一回町民健康まつり開催
	10月8日		全国学校給食研究大会で津嘉山小学校が文部大臣表彰を受賞
	11月29日		国体リハーサル大会開催
62年	2月28日		南風原勤労者体育センター落成
	3月31日		照屋農村コミュニティセンター落成
	3月31日		町の人口が2万5千人を突破
	4月1日		南風原中学校開校(南風原中学校より分離)
	6月5日		外国人英語教師招聘
	8月17日		～24日、「飛び安里展」開催
	10月25日		～30日、海邦国体開催(成人女子バスケットボール)
63年	3月17日		番所跡にテニスコート完成
	4月1日		学校教育指導主事配置
	6月6日		琉球餅振興審議会設置
	8月30日		～31日、第一回南風原町福祉まつり開催
	8月9日		学校給食調理場移転落成式
	10月1日		北丘ハイツ自治会発足
	4月21日		南風原町赤十字奉仕団結成
	5月1日		印鑑証明書発行のオンライン化開始
	8月3日		町出身者南米留学生入事業開始
	11月3日		南風原文化センター開館
2年	1月17日		町道10号線道路改良工事着工
	4月1日		町制施行10周年記念式典
	4月28日		北丘児童館落成式
	6月2日		本部公園開園
	6月27日		「南風原陸軍病院跡」を町文化財に指定
3年	4月5日		翔南小学校・幼稚園開校
	4月20日		兼城児童館落成
	8月17日		飛び安里初飛翔顕彰記念碑が完成
	11月5日		中央公民館が文部大臣表彰を受賞
	11月18日		～29日、土のダスク・クニドーン遺跡が見つかる
4年	4月18日		本部児童館落成
	5月1日		住民課において昼休み時間中の窓口業務開始
	5月27日		南風原共同福祉施設完成
	7月17日		津嘉山大綱曳き、10年ぶりに開催
	4月17日		津嘉山児童館落成
	8月7日		～8日、南風原物産展、愛媛県八幡浜市で開催

年	月	日	沿革
	8月12日		～21日、第一回国際交流団として中学生10名をハワイへ派遣
6年	2月26日		公民館まつりで第一回ウチナーグチ大会を開催
	6月1日		在宅介護支援センター開所
	8月23日		JA津嘉山がストレリチアの産地宣言
	9月18日		本部、喜屋武、照屋を結ぶがすりの道完成
7年	1月24日		琉球餅事業協同組合20周年記念事業で、がすりの歌「夢繪人」を披露
	3月11日		～12日、第二回町民劇場で「黄金南風の詩」を上演
	4月1日		宮城公園開園
	6月4日		黄金森劇団(町民劇団)結成
	7月3日		こみの5種類分別リサイクル収集開始
	8月1日		県立公文書館開館
8年	3月25日		ハワイ南風原町人会が初来県
	4月1日		共同作業所「はんどinはんど」が福祉センター内に開所
	7月24日		第三次南風原町総合計画策定
9年	6月21日		南風原国民学校卒業式、52年ぶりに挙行
	8月9日		～10日、平和創造劇「卒業証書」を町民で上演
	8月10日		南風原町ジュニアリーダークラブ結成
	8月18日		町の人口が3万人を突破
	8月24日		町婦人会連合会が結成し50周年を迎え、町女性連合会へ改称
	12月15日		南風原町商工会設立20周年記念式典
10年	2月14日		古紙をリサイクルした「がすりペーパー」発売
	3月21日		役場新庁舎落成
	6月2日		県内初の子どもエコクラブが発足
	10月27日		町女性連合会が環境庁長官賞受賞
11年	3月1日		地域振興券交付
	3月20日		宮平保育所完成
	6月2日		こみ袋指定化開始
	7月		町史「第二巻」「第三巻」発刊
12年	4月1日		町制施行20周年
	4月21日		カナダ首相をたずね、町民210名がカナダへ
	6月		男女共生活会を創る懇話会設立
	7月		「南風原の自然と地理」発刊
	7月21日		沖繩サミット、クリエイティブ首組(カナダ)来町
	8月19日		～20日、第三回町民劇場「巨太郎幻想」上演
	11月3日		～5日、南風原・アジア餅ロードまつり開催
13年	4月28日		黄金森公園・陸上競技場落成式典、供用開始
	7月1日		宮平ハイツ自治会発足
	7月		町議会史発刊
	9月15日		第一回「小学生陸上競技大会」開催
14年	3月		男女共同参画計画「まじゅんプラン」策定
	4月1日		学校週休2日制度開始
	4月1日		町情報公開制度・個人情報保護制度開始
	6月30日		ホッケー日本リーグ「日光アイスバックス」が来町交流試合開催
	7月8日		東部消防南風原出張所、落成式
	8月		住民基本台帳ネットワークシステム稼働開始
	8月17日		～18日、翔南フレッツ(少年野球)全国選抜大会(下関)で優勝
	10月21日		青少年国際交流事業、初めてカナダへ
15年	2月15日		那覇市・南風原町こども処理施設起工式
	3月16日		と那覇コミュニティセンター落成式
	6月30日		カナダ市庁舎と市と友好都市締結
	8月18日		市町村合併に向け、各字と意見交換会始まる
	9月9日		市町村合併に向けての住民アンケート実施
	10月17日		南風原・東風原・大里・具志頭合併協議会設置
16年	3月1日		南風原幼稚園新園舎完成
	4月9日		琉球餅・南風原花織町無形文化財認定
	9月1日		南風原小学校新校舎完成
	9月29日		南風原・東風原・大里・具志頭合併協議会解散
	10月2日		黄金森野球場オープン
	10月26日		南風原がばちや拠点産地認定
	11月12日		町財政健全化計画・町職員適正化計画策定
	2月5日		花・水・緑の大回廊公園オープン
	4月1日		町制施行25周年記念式典
	6月2日		ストレリチア拠点産地認定
	7月1日		昼休みの窓口業務拡大
	10月28日		琉球餅事業協同組合設立30周年記念事業
	12月1日		こみ分別変更 プラスチック類が燃えるごみへ
	12月1日		国勢調査速報結果 町人口33,538人
18年	1月		津嘉山小幼創立30周年
	2月12日		那覇・南風原クリーンセンター稼働
	4月1日		県立南部医療センター・こども医療センター開院



年	月	日	沿革
	5月9日		カナダレスブリッジ市制100周年へ町民35人が訪問
	9月10日		町議会議員選挙 議員定数22名が16名へ
	12月21日		南風原町中学校新校舎完成
19年	2月		住基カード利用の自動交付機導入
	3月		第4次南風原町総合計画策定
	3月27日		那覇エコア일랜드(海を埋め立てた廃棄物を処分する施設)完成
	4月1日		南風原町機械改装 役場組織の見直し
	4月28日		新川公園落成
	6月18日		沖繩陸軍病院南風原療養部20号一般公開開始
	6月23日		憲法第9条の碑・鎮魂平和の鐘除幕
	7月1日		環境の杜ふれあふ落成
	11月1日		パークゴルフ場オープン
	12月14日		南風原町商工会設立30周年
20年	2月23日		南風原中学校創立20周年
	4月		特定健診・特定保健指導開始
	4月		資源ごみのかご出し、使用済みたばこ油の収集が開始
	7月		南風原文化センター・移転建設工事着工
	8月		ブラジル・フルゼンチン移民100周年視察訪問
	11月1日		南風原村制100周年記念式典
	12月22日		総務大臣賞(地方自治部門)受賞
21年	2月13日		兼城交番が南風原幼稚園に移転
	2月15日		南風原中学校60周年
	3月30日		村制100周年記念植樹祭
	6月22日		たばこ油燃料での給食配達車ごと収集車走行開始
	10月9日		南風原町平和とガイドの会(NPO法人)設立
	11月3日		南風原文化センター新装開館
22年	4月1日		町制施行30周年記念式典
	4月1日		ファミリサポートセンター設置
	6月2日		マンユースター・フルーツ産地協議会設立
	6月19日		戦争遺跡保存保全全国シンポジウム開催
	7月29日		美ら島沖繩高校総体女子バスケットボール競技
	8月17日		夏祭りラジオリレー大会開催の体操会南風原大会
	9月6日		戸籍総合システム稼働開始
	9月14日		総合保健福祉防災センター(ちむくる館)開館
	9月22日		町人口35,000人に到達
	12月5日		黄金森公園テニスコートオープン
	12月22日		南風原町平和の礎(兼城)完成
23年	1月5日		黄金森テニスコートがちむくる館屋上完成
	2月9日		南風原町人材サポートセンター設置
	2月20日		南風原町小学校130周年記念式典
	7月1日		広域行政窓口サービス開始
	10月1日		新町立中央公民館(地域交流センター)開館・町立図書館開館
	10月16日		世界の南風原町人歓迎会
	11月20日		翔南小学校・幼稚園20周年記念式典
	11月26日		第1回公私保育園交流運動会
24年	4月18日		南風原町LED電光掲示板発動
	4月24日		第1回議会報告会開催
	11月		南風原町イメージキャラクター「はえるん」誕生!
25年	3月		10月12日を南風原町民平和の日制定
	4月1日		南風原町観光協会発足
	7月9日		南風原町デジタル

テレホンガイド



■町の公共施設 (市街局番098)

名称	電話番号	所在地	敷地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)
南風原町役場	889-4415	南風原町字兼城686	5,361	7,148
学校給食共同調理場	889-3691	南風原町字宮城248	9,660	1,193
町立宮平保育所	889-3920	南風原町字宮平9	2,933	572
町立公民館				
中央公民館	889-0568	南風原町字喜屋武218	黄金森公園一部	2,822
津嘉山地区公民館	889-1435	南風原町字津嘉山690	3,382	1,228
町立幼稚園				
南風原幼稚園	889-4101	南風原町字兼城684	南風原小一部	656
津嘉山幼稚園	889-4559	南風原町字津嘉山684	5,728	702
北丘幼稚園	889-6815	南風原町字宮平336	6,007	673
翔南幼稚園	889-7133	南風原町字喜屋武450	4,892	452
町立小学校				
南風原小学校	889-2088	南風原町字兼城685	26,114	9,942
津嘉山小学校	889-1230	南風原町字津嘉山684	25,092	8,072
北丘小学校	889-6520	南風原町字宮平336	46,875	8,471
翔南小学校	889-3401	南風原町字喜屋武450	36,468	6,824
町立中学校				
南風原中学校	889-2095	南風原町字兼城780	26,167	9,648
南星中学校	888-0432	南風原町字照屋200	34,537	10,084
文化センター	889-7399	南風原町字喜屋武257	黄金森公園一部	1,841
社会福祉センター	889-3213	南風原町字照屋1	4,589	1,495
総合保健福祉防災センター	889-7381	南風原町字宮平697-10	黄金森公園一部	2,394
琉球かすり会館	889-1634	南風原町字本部157	1,814	766
山川体育センター		南風原町字山川1196	6,972	154
農村コミュニティセンター	889-6632	南風原町字照屋134	525	292
与那覇コミュニティセンター	889-2259	南風原町字与那覇59	2,183	433
新川コミュニティセンター	889-0383	南風原町字新川148-12	792	363
兼城児童公園		南風原町字兼城170	1,727	12
本部近隣公園		南風原町字本部352	22,784	37
宮城近隣公園		南風原町字宮城242-3	19,978	64
神里ふれあい公園		南風原町字神里712-1	6,318	49
黄金森公園	835-6755	南風原町字宮平718-1	192,362	3,276
新川公園		南風原町字新川148-1	2,803	64
北丘児童館	889-3883	南風原町字宮平489-1	696	295
兼城児童館	889-6114	南風原町字兼城84	601	328
本部児童館	889-5008	南風原町字本部116	977	370
津嘉山児童館	888-2925	南風原町字津嘉山663-1	898	404
南風原町観光案内所	882-6776	南風原町字喜屋武241-1	黄金森公園一部	75

資料：総務課

■町内の郵便局 (市街局番098)

名称	電話番号	所在地
南風原郵便局	889-2011	南風原町字兼城723
日本郵便 南風原中郵便局	889-0720	南風原町字兼城684-9
津嘉山郵便局	888-0702	南風原町字津嘉山1462-2
宮平郵便局	888-3533	南風原町字宮平258-3



テレホンガイド

間違い電話に
気をつけてネ!



■その他の施設 (市街局番098)

名称	所在地 / 電話
南風原町社会福祉協議会	南風原町字照屋1 889-3213
沖縄中央育成園	南風原町字宮平548-1 889-4100
よもぎ学園	南風原町字宮平550 889-6011
南風学園	南風原町字宮平540 889-4878
東部消防組合本部	南風原町字与那覇226 945-2200
東部消防署南風原出張所	南風原町字津嘉山939 889-5174
南風原共同福祉施設	南風原町字本部158 889-6889
南風原町商工会	南風原町字本部158 889-6121
南風原町観光協会	南風原町字本部158 851-7273
沖縄県土地改良事業団体連合会	南風原町字本部453-3 888-4511
那覇市クリーン推進課	南風原町字新川650 889-3567
那覇・南風原クリーンセンター	南風原町字新川650 882-6701
那覇市・南風原町環境施設組合	南風原町字新川650 882-6701
那覇市リサイクルプラザ	南風原町字新川641 889-5396
沖縄県農業協同組合南風原支店	南風原町字山川526 889-2191
沖縄県農業協同組合津嘉山支店	南風原町字津嘉山343 889-5525
沖縄県農業協同組合南風原町役場支店	南風原町字兼城691 889-2192
沖縄県農業協同組合南風原中部支店	南風原町字兼城193-1 889-2704
J A南風原支店野菜集出荷場	南風原町字山川518 889-3923
J A南風原支店花卉集出荷場	南風原町字山川519 889-3923
J A南風原支店育苗センター	南風原町字山川522-3
J A南風原支店県内野菜集出荷場	南風原町字宮城445 889-8551
J A津嘉山支店集出荷場	南風原町字津嘉山33 889-4860
J A津嘉山支店花卉集出荷場	南風原町字津嘉山33 889-4860
J A津嘉山支店堆肥センター	八重瀬町字外間153-2 998-4143

資料：総務課

■県の公共施設 (市街局番098)

名称	所在地 / 電話
南部農業改良普及センター	南風原町字山川517 889-3515
南部林業事務所	南風原町字新川135 889-1270
工芸指導所	南風原町字照屋213 889-1186
計量検定所	南風原町字新川1272-5 889-2775
南風原高校	南風原町字津嘉山1140 889-4618
開邦高校	南風原町字新川646 889-1715
沖縄盲学校	南風原町字兼城473 889-5375
精和病院	南風原町字新川1260 889-1390
兼城交番	南風原町字兼城684-10 889-3892
南部福祉保健所	南風原町字宮平212 889-6351
総合精神保健福祉センター	南風原町字宮平212 888-1443
沖縄県公文書館	南風原町字新川148-3 888-3875
沖縄県立てるしのワークセンター	南風原町字宮平206-1 889-4011

資料：総務課

■各字自治会事務所 (市街局番098)

行政区	所在地 / 電話	行政区	所在地 / 電話
与那覇	南風原町字与那覇59 889-2259	照屋	南風原町字照屋134 889-6632
宮城	南風原町字宮城218 889-2257	津嘉山	南風原町字津嘉山690 889-1435
大名	南風原町字大名148 889-5267	山川	南風原町字山川202 889-4429
新川	南風原町字新川179-1 889-0383	神里	南風原町字神里120-1 889-4428
東新川	南風原町字新川584	兼本ハイツ	南風原町字本部434-52 889-6661
宮平	南風原町字宮平94 889-6655	第1団地	南風原町字本部144
慶原	南風原町字宮平1072-3	第2団地	南風原町字兼城519 889-6225
兼城	南風原町字兼城84 889-6200	北丘ハイツ	南風原町字宮平381-59 888-0308
本部	南風原町字本部116 889-6648	宮平ハイツ	南風原町字宮平1028-35
喜屋武	南風原町字喜屋武139 889-6603		

資料：総務課

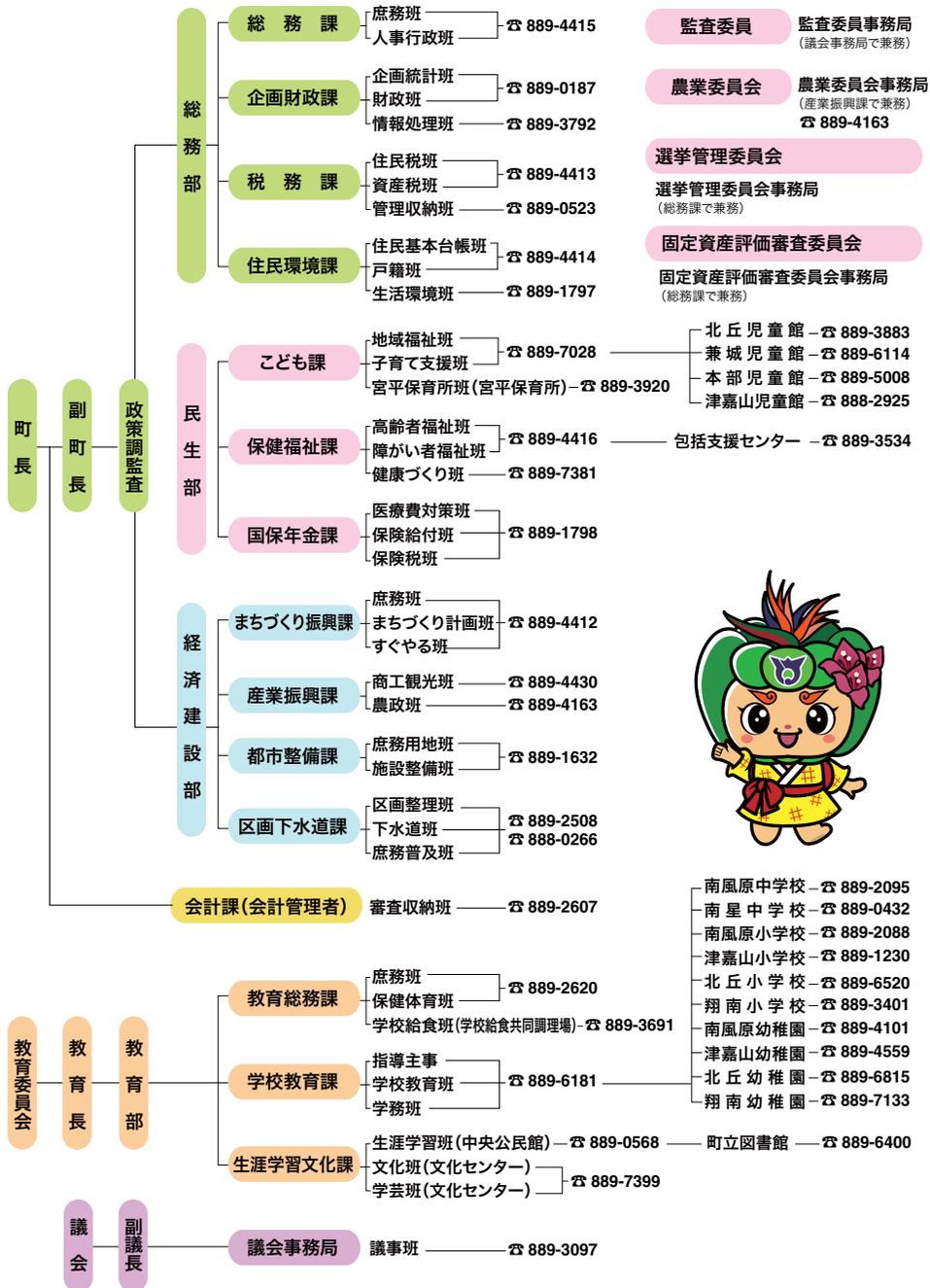
機構図

南風原町行政機構図

(平成27年4月1日現在)

http://www.town.haebaru.lg.jp

☎市外局番(098)



目で見る南風原

人口密度 (H27・12月末) 1kmに3,470人	世帯人数 (H27・12月末) 1世帯に2.7人	転入 (H27・1~12月) 1日に5.8人	転出 (H27・1~12月) 1日に6.2人
出生 (H27・1~12月) 年564件 1日に1.5人	死亡 (H27・1~12月) 年201人 2日に1.1人	結婚 (H27・1~12月) 年239件 1.5日に1カップル	離婚 (H27・1~12月) 年72件 5.1日に1カップル
ゴミ収集量 (H26年度) 1月1人当り23kg	水道使用量 (H26年度) 1日1人当り297ℓ	火災 (H27・1~12月) 年12件 30日に1件	救急出動 (H27・1~12月) 年1,607件 1日に4.4件
原動機付自転車 (H27・4.1現在) 3,933台 3.5世帯に1台	町の借金 (平成26年度) (H27・4.1現在) 142億7,677万円 1人当り38万4,735円	一般会計の決算 (平成26年度) (H27・7.1現在) 歳出=約129億5,484万円 1人当り34万9,112円	町税負担 (H26年度) 1人当り9万2,356円
医師 (歯科医師含む) (H26・12現在) 町民131人に1人	町職員 (H27・4.1現在) 200人 町民185人に1人	町議会議員 (H27・7.1現在) 16人 町民2,333人に1人	



2016 南風原町勢要覧

発行：2016年3月

編集：南風原町役場総務課

発行所：南風原町役場

〒901-1195 沖縄県島尻郡南風原町字兼城686番地

☎ (098) 889-4415

印刷：有限会社サン印刷

〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城577番地

☎ (098) 889-3679 (代)

<http://www.town.haeburu.lg.jp>